University of Tsukuba Library

Annual Report

2014

筑波大学附属図書館 年報2014年度

目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2014

14

C O N T E N T S

1 1 館長挨拶

2 2 トレンド
機関リポジトリ

4 3 フォーカス（2014年度の特徴的な活動・事業）
1）2014 年度ラーニング・アドバイザー（LA）の活動
2）医学図書館リニューアルオープン
3）中央図書館開館時間の延長（試行）
4）はじめての学生選書ツアー
5）体芸図書館における展示
6）図書館を飛び出した書物たち ― 平成26年度筑波大学附属図書館企画展

12 4 資料紹介
聖語蔵経巻

13 5 職員の活動
1）出張報告（イェール大学図書館およびマサチューセッツ大学（UMass）アマースト校図書館訪問）
2）論文発表・研修における講師等
3）職員研修会

18 6 トピックス
サービス・活動、企画・展示、見学・来訪者、オリエンテーション・講習会、
研修・シンポジウム、会議、その他

22 7 メディアにみる附属図書館
1）学内外のメディアに掲載された当館に関する記事
2）図書館の刊行物

23 8 所蔵・公開資料の記録
出版・放映・Web 上に掲載された所蔵・公開資料

24 9 附属図書館ボランティアの活動

25 10 組織図・歴代館長

26 11 統　　計

1 館長挨拶

中央図書館 エントランス

筑波大学附属図書館長
中山　伸一

開かれた大学図書館にむけて

「筑波大学附属図書館年報2014」をお届けします。

ご挨拶にかえて、2014年度の附属図書館におけるいくつかのトピックスをご紹介します。

まず学習支援関係のトピックスとしては、ここ何年か継続して行っている中央図書館の開館時間延長の取り組みがあげられます。本年度は授業期間中の開館時間延長を正式運用とし、休業期間についても開館時間延長の試行を始めました。貸出時間や研究個室･セミナー室の利用時間も、授業期間中の開館時間延長の正式運用に伴い、それぞれ延長しました。

「ライティング支援連続セミナー」や「プレゼンテーションセミナー」は本年度も継続して実施するとともに、前者の1回を大塚図書館でも開催しました。本年度新たに始めた、附属図書館による企画の「英語論文の書き方セミナー」とラーニング･アドバイザーによる企画の「LAセミナー」は、大変盛況でした。

一般教養的な図書の充実のため、教員推薦学生用図書の試行を行いました。数はまだ少ないですので、多くの教員の方々の推薦をお待ちしております。学生選書ツアーという新たな取り組みも実施しました。7名の参加者により39冊の図書を選書してメインカウンター前に展示し、好評を博しました。

研究支援関係では、「平成28年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」の策定とその選定が行われたことが大きなトピックスとしてあげられます。関係する皆様のご協力により、研究遂行に欠くことのできない電子ジャーナル等を引き続き同規模で提供できることとなりました。筑波大学の研究力の向上に多いに役立つものと期待しております。

非来館型サービスの中心となる電子ジャーナルやデータベース、電子ブックについては引き続きコンテンツの充実に努めております。本年度も研究大学強化促進事業経費等により、Web of Scienceの未だコレクションされていなかったバックファイル、WileyやOxford University Pressの要望の多い電子ジャーナルのバックファイル等を購入しました。さらにSpringer、Elsevier、Blackwellなどの電子ブック等も整備し、電子ブックの総数は約27,000タイトルとなりました。多くの方々にご利用いただければと思います。

社会貢献･情報発信関係のトピックスとしては、恒例の附属図書館企画展があげられます。今回は「図書館を飛び出した書物たち」と題して、教科書や雑誌、テレビ等でとりあげられた資料を展示･解説しました。1,800名を越える入場者があり、盛況でした。

つくばリポジトリの総コンテンツ数は順調に増加し、約33,000件になりました。図書館はリポジトリに登録可能な論文を調査し、研究者の皆さんに登録のお願いをしております。筑波大学の研究成果を広く公開するために、登録のご協力をお願いします。

関連して、つくばリポジトリを国立情報学研究所が提供するクラウド型共用リポジトリサービス「JAIRO Cloud」に移行する作業を行いました。作業過程で利用者の皆さまにご迷惑をおかけいたしましたが、つくばリポジトリのような大きな機関リポジトリの移行作業は初めてということで、今後の大規模な機関リポジトリ移行の手本になると思われます。

その他のトピックスとして、8月に医学図書館が耐震改修工事を終えてリニューアル開館しました。仮設図書室の間は、大変ご不便をおかけしましたが、改装した図書館は、以前より充実した設備をそろえ、使い勝手の良い配置にしました。多くの皆さまのご利用をお待ちしております。

さて、筑波大学附属図書館は国立大学図書館協会の理事館であり、国公私立大学図書館協力委員会および同委員会と国立情報学研究所（NII）との連携･協力推進会議のメンバーです。最後に、これら学外に関連する状況も少し紹介しておきます。

電子ジャーナルの価格高騰は長年にわたり学術情報流通における大きな問題であり、連携･協力推進会議のもとに設置された大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）が、電子ジャーナルの契約条件の交渉等で一定の成果をあげておりました。ところが2015年10月から、これまで不課税となっていた海外サーバによる電子ジャーナル等が消費税の課税対象になることとなりました。これに対して、国立大学図書館協会と国公私立大学図書館協力委員会は連名で、学術情報資料に対する消費税軽減税率の適用に関する要望の声明を出しました。今後どの様になるか注目されるところです。

附属図書館は、以上のように皆様から見える所、見えない所で、その利用や来館の敷居をできるだけ下げる工夫をすることにより、開かれた大学図書館を目指しております。多くの方々の更なるご利用と、附属図書館のこれらの活動に対するご理解･ご支援を、この場を借りてお願い申し上げます。

2 トレンド

機関リポジトリ[1)]

1. 機関リポジトリの現状と課題

機関リポジトリは「大学や研究機関が主体となって所属研究者の知的生産物を電子的に収集、蓄積、提供するシステム、またそのサービス」[2)]です。2003年の千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)を嚆矢とする日本の機関リポジトリは、2015年3月末現在で公開数は405、公開機関数は526を数えるに至りました(図1)。また、機関リポジトリに収録された本文付きのコンテンツ数は2014年度3月末で138万件を越え、その大半は紀要論文、学術雑誌論文、学位論文等です(図2)。2013年度のアクセス件数は1億4,713万件、ダウンロード数は1億4,434万件に上っています(図3)。このような機関リポジトリの劇的な成長の背景には、2005年度から2012年度まで実施された国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業及び学術機関リポジトリ連携支援事業の支援に大きく与っています。最近は国立情報学研究所が提供する共用リポジトリサービスJAIRO Cloudによる構築機関が増えており、2015年1月5日現在で公開中/公開準備中/申請中の機関を合わせ240機関が利用しています[3)]。

一方で、機関リポジトリの課題も明らかになってきました。学術機関リポジトリ連携支援事業第3期報告書では、5つの主要な課題として(1)本事業の成果を取り込んだ先進的な機能と、国際的な相互運用性とを兼ね備えた機関リポジトリのプラットフォームの提供(2)サブジェクトリポジトリの強化(3)オープンアクセスについての理念や制度化の検討(4)研究業績の評価に対して機関リポジトリが担う役割の検討(5)オープンアクセスを基調とした図書館活動を担う人材の育成や、機関を超えた連携・支援活動の推進、を挙げています[4)]。これらに加えて2013年度から始まった博士学位論文のインターネット公表や研究データ等の新たなコンテンツの収集も課題です。

2. 機関リポジトリ推進委員会

機関リポジトリ推進委員会(以下「推進委員会」)は、このような状況を受けて、大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に2013年8月に発足しました。推進委員会の目的は、(1)「機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築」に関する事項を企画・立案し、学術情報の円滑な流通及び発信力の強化にかかる活動を推進する(2)「学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成」および「学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進」について、機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築に関連する活動を推進することです。

2013年度は、機関リポジトリの現状認識の共有を図り、将来展望・戦略的重点課題・当面の行動計画について検討を行い、「大学の知の発信システムの構築に向けて」をとりまとめました。

3. 大学の知の発信システムの構築に向けて

「大学の知の発信システムの構築に向けて」[5)]は、学術情報流通に関する現状認識と将来展望に基づき、重点課題を定め、機関リポジトリの一層の推進を通じてこれらの解決に取り組むことを宣言した文書です。

この文書では、機関リポジトリの将来の方向性を、大学の教育研究活動のあらゆる成果の蓄積と徹底的なオープンアクセス化を担うことにより、インターネット環境下における情報インフラとなること、教育研究戦略に必要な情報を大学に提供し、それによって学術情報流通システムを変革するとしています。このために、取り組むべき「戦略的重点課題」が以下の4項目にわたって掲げられています。

(1)オープンアクセス方針の策定と展開

各機関の公表義務化、研究インフラ整備、コンテンツの多様化等の戦略に資するオープンアクセスのガイドラインを作成し、ゴールドオープンアクセスの進展を踏まえた種々のレベルにおけるオープンアクセス方針の策定に貢献する。

(2)将来の機関リポジトリ基盤の高度化

アカデミック・クラウド環境における機関リポジトリ基盤を高度化し、機関リポジトリの管理・運営環境を整備する。

(3)コンテンツの充実と活用

学術機関リポジトリ構築連携支援事業の成果を活用し、機関リポジトリに蓄積されているコンテンツの評価を行い、多くの利用が見込まれる分野等において未整備のコンテンツを充実させるとともに教育研究での多面的な活用を促進する方策を進める。

(4)研修・人材養成

研究データ等の文献に留まらないコンテンツを扱い、機関リポジトリの高度化や国際コミュニティと連携協力を行う人材を養成する等のために研修等を実施する。

4. ワーキンググループ

推進委員会は2014年度に、「大学の知の発信システムの構築に向けて」の「当面の行動計画」の内容に沿って、具体的な活動内容を立案し実行するために、コンテンツ、国際連携、技術の3つのワーキンググループ(以下「WG」)を設置しました。8月1日にWGのキックオフミーティングを開催し、WGの趣旨の共有や行動計画の検討を行いました。

5. 2014年度の行動計画と図書館総合展におけるフォーラム

10月6日に開催した第6回推進委員会で2014年度のWGの行動計画を策定しました(表1)。WGの活動は事業の性格に鑑みて個別にではなく、横断的にまた相互に連携して行われるものです。

11月6日の第16回図書館総合展において推進委員会主催、デ

JAIRO Cloudに移行したつくばリポジトリ

ジタルリポジトリ連合(DRF)共催のフォーラム「大学の知の発信システムの構築に向けて―機関リポジトリの新たな可能性を探る」を開催しました。このフォーラムには、400名を超える参加者があり、推進委員会の活動とその進捗を周知し、機関リポジトリ運営に関する先端的課題である研究データの管理について国際的動向を共有し、機関リポジトリ担当者コミュニティと共同で機関リポジトリの今後の発展の方向性について議論することができました。

6. オープンアクセスについての新たな動き

2014年度末になって、学術研究成果を誰もが無料でオンライン利用できるようにすることを目指すオープンアクセスを巡って二つの大きなできごとがありました。

一つ目は、国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会(内閣府総合科学技術・イノベーション会議)が開催され、「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～」が報告書としてとりまとめられたことです[6]。これは国としてのオープンアクセス推進に関する基本的な考え方を示した文書で、今後、各省庁、資金助成機関には、公的研究資金による論文やそのエビデンスとなった研究データのオープン化に関する実施方針計画の策定が求められ、一方、大学には、大学全体のオープンアクセス方針等とその実施に向けた具体的な運用計画の策定が求められることが予想されます。また、この報告書では図書館と機関リポジトリがオープンサイエンスの基盤として明示されているほか、大学図書館職員等を中心としたデータ管理体制、論文や研究データの永続的、長期的保存を担保するために大学図書館等の協力を得ることが有効などの指摘があります。

二つ目は、文部科学省科学研究費補助金の実績報告書に2014年度分から成果論文のオープンアクセス化の有無を報告するチェック欄が設けられたことです。具体的には、「科研費の研究成果をオープンアクセス誌に発表した場合や、機関リポジトリに登録するなどセルフ・アーカイブ等により当該論文を公開した場合、あるいはいずれかの予定がある場合(オープンアクセスを実施する時期は問わない。)には、「オープンアクセス」欄のチェックボックスにチェックをすること」と説明されています[7]。これによって科研費の研究成果のオープンアクセス化の促進が予想されます。

これらの二つの動きを受けて、大学における機関リポジトリが研究のライフサイクルの中に組み込まれ、真の意味での「大学の知の発信システム」となり、大学図書館がその担い手として活動の場をますます拡げることが期待されます。

(副館長　加藤　信哉)

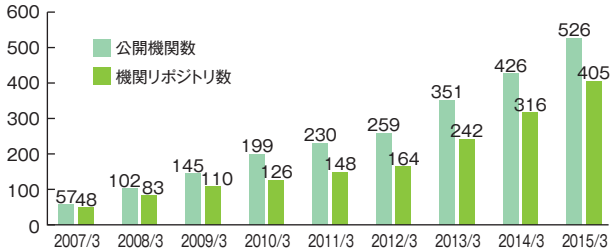


図 1 日本における機関リポジトリ公開数の推移

出典:国立情報学研究所.学術機関リポジトリ構築連携支援事業
http://www.nii.ac.jp/irp/archive/statistic/irp_2014_statistic.html

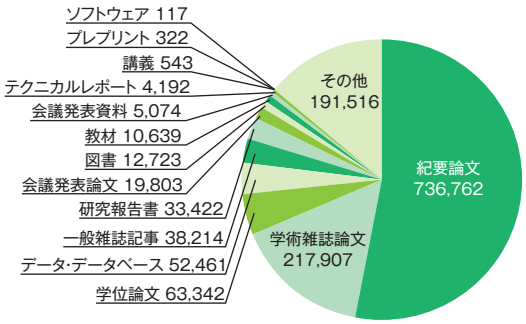


図 2 機関リポジトリに収録された本文付きのコンテンツの種別

出典:平成26年度学術情報基盤実態調査報告
http://www.janul.jp/j/documents/mext/jittai26kekka.pdf

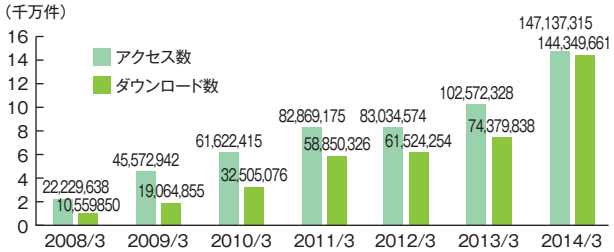


図 3 機関リポジトリのアクセス数・ダウンロード数の推移

出典:学術情報基盤実態調査結果報告

表 1　2014 年度活動計画

WG	項目
コンテンツ	コンテンツ構築ノウハウの継承(特にJAIRO Cloud新規参入館への注入)
	博論電子公開制度の実績評価と課題抽出・解決
	オープンアクセス方針も視野に入れた学内認知度向上
	研究データの取り扱いに向けた調査
	ELS里親さがし
	図書館学サブジェクトリポジトリ
	図書館総合展フォーラム(11/6)
国際連携	図書館総合展フォーラム(11/6)
	国際会議動向調査
	海外動向調査
	海外との情報共有
技術	機関リポジトリへの当該機関所属著者の文献データの自動収集
	SCPJの今後の運用方針の検討
	researchmapと機関リポジトリとの連携
	機関リポジトリログの標準処理・解析結果表示システムの構築
	機関リポジトリコンテンツの活用方法の模索

注　1) 本稿の1.から5.の部分は、加藤信哉「機関リポジトリ推進委員会の活動について―大学の知の発信システムの構築に向けて―」『図書館雑誌』vol.108 no.12, 2014, p.796-799.を改稿したものである。
2) 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編、図書館情報学用語辞典、第4版. 丸善出版、2013. p.45.
3)JAIRO Cloudコミュニティサイト　https://community.repo.nii.ac.jp/
4)「未来への飛躍～機関リポジトリの更なる発展を目指して～　学術機関リポジトリ構築支援事業第3期報告書」2014年3月 国立情報学研究所. 要旨　http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi_ir_h22-24_report.pdf
5)「大学の知の発信システムの構築に向けて」機関リポジトリ推進委員会 2013年12月13日　https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/?action=common_download_main&upload_id=22
6)「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について~サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け~」国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会. 2015年3月30日　http://www8.cao.go.jp/cstp/sonota/openscience/
7) 様式C-7-1記入例・作成上の注意(電子申請対応用)　https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/16_rule/data/26_dl/c-07-1_rei_e.pdf
※各URLの確認：2015年4月10日

3 フォーカス（2014年度の特徴的な活動・事業）

1.2014年度ラーニング・アドバイザー（LA）の活動

1. 学生サポートデスクにおける相談内容の傾向

中央図書館ラーニング・スクエアの中心に配置されている学生サポートデスクでは、学期中の平日14時から19時の間、LAが学習相談に応じています。今年度の特徴として、PCに関する質問が減少し、学習・ライティングに関する相談件数が増加した点が挙げられます。今年度の学習・ライティングについての質問数は145件で、これは相談件数全体の25%を占めます（図1）。

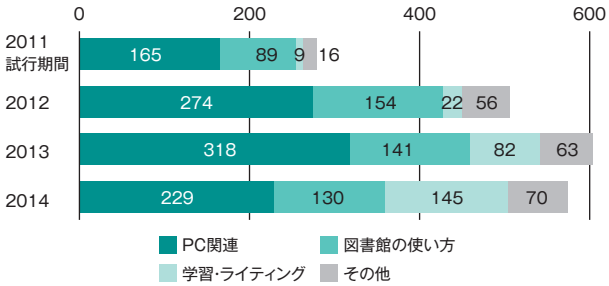


図 1 学生サポートデスク相談内容別件数の推移
（2011年度 - 2014年度）

この傾向の変化は、「何を相談できる場所なのかわからない」という学生の声を受け2013年度末に作られたプロモーションビデオや、親しみやすいちらし等、広報面の強化がその一因として考えられます。学生サポートデスクの存在やその意義が、利用者により広く浸透しつつあるのではないでしょうか。

2.「学生協働ワークショップin東京2014～大学図書館における学生協働の拡がり～」への参加

LA赤木 紗菜・山本 祥子

2014年9月11日にお茶の水女子大学で開催された標記のワークショップでは、関東の大学図書館を中心に12館から参加があり、他の参加者との交流を通して大学図書館における学生協働について多様な取り組みを知ることができました。

ワークショップでは、まず参加者がそれぞれの活動内容について発表し、活動の成果と今後の課題を共有しました。プログラムは「図書館サポートの部」と「ピアサポートの部」の二部構成になっており、私達は「ピアサポートの部」で発表しました。質疑応答では、特に学生サポートデスクにおけるライティング支援活動の成果について多くのご意見をいただき、普段の活動を見直すよい機会になりました。

その後、ワールドカフェ方式で、数グループに分かれて学生によるディスカッションが行われました。「図書館をもっと良くするためにできること」という壮大なテーマについて、図書館の環境や利用者の立場などの視点から、熱のこもった議論が繰り広げられました。この時間のおかげで、しっかり自分自身の頭を使って各大学の発表を振り返ることができ、本学と他大学の良さや違い、議論で得た学びを、今後の実践に繋げるために考えることができました。

その後、東京大学、お茶の水女子大学、立教大学などの職員や学生の方々がLAセミナーや学生サポートデスクの見学に来てくださり、ワークショップでの出会いが着実に活かされていることを実感しました。このつながりが来年度以降の活動にも活かされればと思います。

3. 新たな挑戦 ～ LAセミナー

2014年度は、LAが主体的に企画・運営を行なう「LAセミナー」を新たに実施しました。これは、図書館が実施する講習会や日頃の相談対応から更に踏み込んだ内容の学習支援を行なうものです。

授業を終えた学生が参加できるよう6限終了後の時間に開催しました。また、ラーニング・スクエアの利用促進を図るため、初めて学生サポートデスク付近のオープンな学習スペースで行いました。慣習的に静かに使われることが多いフロアのため、適正な音量かどうかの検証も行いました。各セミナーにはいずれも約60 ～ 70名の参加があり、会場は満席となりました。出入りが自由な空間で、気軽に立ち寄れる雰囲気は、参加者が増えた一因であると思われます。

参加者の声を含め全体を振り返ると、ラーニング・スクエアのコンセプト「学生同士が気軽に集い、学び、教え合う学びの空間」を実践できた良い機会となり、概ね成功であったと言えるでしょう。実施後には、同フロアを使って授業の成果発表を行いたいという申し出があるなど、新たな反響がありました。今後更なる活性化につながることを期待しています。

このほか、昨年度実施され好評だったプレゼンテーションセミナーは、今年度LAを講師として実施し、過去最多の参加者数101名を記録しました。

■文献管理しナイト！ - 院生の“自分流”から探るテクニック

LA五十嵐 啓太・金 瑜眞

文献管理は効率よく研究を進めるうえで必要なスキルの一つといえます。しかし、文献管理と一口に言っても、その方法は多岐に渡ります。本セミナーは、文献管理に関する情報を交換し

合い、自分流の文献管理法を探る機会を提供するために開催されました。

セミナーでは、まず、4名のLAがこれまでの大学院生活の中で培ってきた文献管理のノウハウを紹介しました。それぞれがまったく異なる文献管理法を実践しており、自分流の文献管理術を探るうえで、たくさんのヒントが得られる内容になっていたと思います。例えば、A4の封筒を使ってカテゴリーごとに分けて管理する方法、RefWorksやEvernote、SugarSyncといったWebサービスを活用した方法、リサーチ・クエスチョン整理表を用い文献内容に焦点を当てた整理方法、PDFのファイル名に論文のキーワードを入れる方法などが紹介されました。

その後、参加者とのディスカッションが行われました。特にWebサービスを利用した文献管理に話題が集中し、RefWorksの使い方に関する議論をしたり、参加者からMendeleyの紹介があったりと、活発な意見交換がなされました。ディスカッションの時間が20分と限られていたこともあり、セミナー終了後にも参加者から質問やご意見をいただきました。こうした参加者の反応を見ると、自分流の文献管理術を探る機会を提供するという本企画の目的が十分に達成できていたと思います。

■社会科学系院生による量的・質的研究法ビギナー講習会

LA金井 雅仁・坂井 彩希

本セミナーは、これから卒業研究に取り組む学群3年生や、修士論文に向けて研究をまとめていく修士(博士前期)課程1年生を対象層として想定し、2回に分けて開催されました。前述の「文献管理しナイト！」のようなディスカッション形式ではなく、LAが講師を務めるセミナー形式に初めて挑戦しました。

内容については、LAが5月に発案して以来1月の本番まで時間をかけて話し合いが行われ、留学生向けの日本語講座や、学類1年生向けのレポートライティング講座といった様々なアイデアの中から、量的・質的研究法セミナーに決まりました。講師担当の2名でプレゼン資料を作った後、LAと職員で意見を出し合う機会を設けました。その場で内容の難しさや説明の仕方について学生目線の意見が多く出されたことは、セミナーを目的に沿ったビギナー向けのものにする上で非常に有益でした。

本セミナーは、各研究手法を実際に使って研究している、いわば「ユーザー」である大学院生(LA)が、研究を進めていく上で知っておいてほしい基本的な注意点を伝えるという趣旨で行われました。「第一部 量的研究のいろは」では、金井が、量的手法を用いる研究における注意点として①調査票作りの基本的注意点、②統計を使うときの注意点、の2点を話しました。「第二部 質的研究のいろは」では、坂井が、①質的研究では何を明らかにするのか、②インタビューの基本的注意点、③インタビューで陥りやすい点、の3点について話しました。

参加者アンケートでは、「分かりやすかった」「基礎的なことを知れてためになった」「役に立った」「丁度良い開催時間だった」といった意見が多く、概ね満足していただけたようです。しかし、少数ではありましたが「後ろの方は声が聞き取りづらかった」「机付きの椅子がよかった」「もうちょっと突っ込んだ内容も聞きたかった」「春日エリアからだと開始時間が早い」など、本セミナーの至らなかった点についてのご指摘もありました。また、第二部について、ビギナー向けとするため敢えて触れなかった分析についても、また別の機会にセミナーを開催してほしいという要望もありました。両セミナーのアンケート結果を踏まえると、今後このような趣旨のセミナーを行う際には、「初級編・中級編・応用編」などのレベル別、あるいは学問領域別にセミナーを開くなどの改善を行うと、より一層参加者のニーズに応えることができそうです。

4. 受け継がれるLAのバトン～今後に向けて

LA発足から3年目となり、2014年度は活動を振り返る節目となりました。利用者のリアルな声を知るため、相談者に対する満足度調査を開始しました。また、質の保証やノウハウの共有といったLA自身の問題意識が高まり、ライティング支援力の底上げを目指したLA勉強会が行われました。ロールプレイングを行い、得られた教訓を次年度以降のLAに役立つよう「ライティング支援の10か条」にまとめました。

月例ミーティングでは、LAが主体的に企画・実施する前年度からの雰囲気が定着し、前述のような成果に繋がりました。広報誌Prismで公開した各イベントのダイジェストは、学生への情報提供に留まらず、LAの成果の蓄積となり、今後のLAの活動の足がかりになることが期待されます。

これまで積み重ねてきたノウハウや風土を継承しつつ新しい企画にも挑戦できるよう、引き続きLAと職員が一丸となって取り組んでいきたいと思います。

(学習支援推進WG 岩本　悠、松野　渉、村尾　真由子)

3 フォーカス（2014年度の特徴的な活動・事業）

2.医学図書館リニューアルオープン

1.耐震改修工事実施決定から リニューアル方針の決定まで

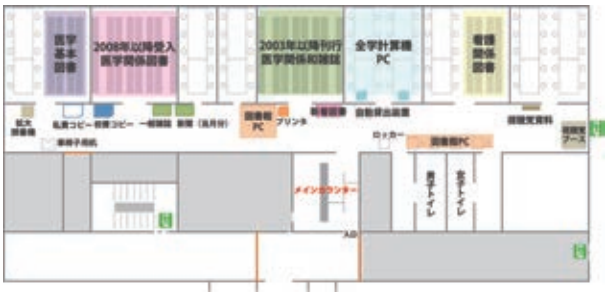
平成２５年度施設整備実施事業により、医学図書館および臨床講義室棟の耐震改修工事が認められ、医学図書館のリニューアルに向けての検討を開始しました。2013年３月から医学医療系教員、医学医療エリア支援室、施設部、附属図書館職員などによる定例の工事打ち合わせが開始されましたが、リニューアルの最大のポイントである館内レイアウトの見直しについては、別途、医学医療系教員との打ち合わせを行い、古い資料の別置、全学計算機サテライトの移動、講習会を行う部屋の設置などの基本方針を固めて行きました。また、工事にかかる約９ヶ月の間は、附属病院旧Ｅ棟の６階フロア全体を仮設図書室とすることが決まりました。

2.資料および什器の移転計画

工事対応で、一番時間と労力が費やされたのは医学図書館内の全資料と什器の移転計画です。リニューアル後の資料配置と仮設図書室で利用する資料の仕分け、移送および保管の準備を、移転期限とされている2013年９月末に向けて行わなくてはならないというタイトなスケジュールでした。さらに、什器の移転および保管、また、仮設図書室への移転に伴うさまざまな図書館サービスの変更設定や広報も行う必要があり、実施すべき事項は多岐に亘りましたが、附属図書館職員全体の協力を得て遂行することができました。

3.仮設図書室での利用提供

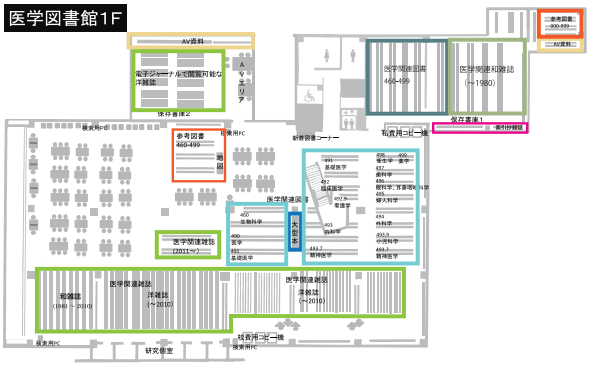
医学地区のほかの建物も工事を実施している中、附属病院Ｅ棟６階の１フロア約６００㎡全体を仮設図書室に割り当てて頂けたのは幸いでしたが、医学図書館の全資料を配置することはできないため、医学医療系の教員と相談の上、利用の多い看護関係図書と、２００８年以降受け入れた医学関係図書、および２００３年以降刊行された和雑誌を配架し、利用に供することになりました。元小児病棟の病室だったため、廊下を挟んで小部屋があるという作りでしたが、図書館資料、閲覧机、ＰＣ、事務スペースなど、やりくりしてなんとか配置することができました。最上階ということで、閲覧スペースの環境も良く、ニーズに応じた資料を選んだこと、また、全学計算機ＰＣも２４台持ち込めたことで、不満の声も比較的少なく運用することができました。医学関係のコアな洋雑誌はほとんど電子ジャーナルで利用ができること、学生に対しては、保管中のため利用ができない資料の取り寄せ無償化サービスを実施したことも、比較的不自由をかけることなく工事期間を過ごすことができた要因だったかと思います。

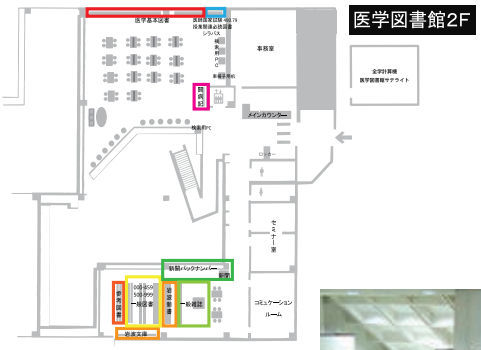


医学図書館仮設図書室 資料配置図
（開室期間:2013.10.1～2014.7.9）

仮設図書室内風景

改修後の医学図書館





リニューアル配置図

館内風景

4. レイアウト計画

館内レイアウトの見直しについては、閲覧机の大部分を占めていた、フラットな4人または6人掛けのタイプではなく、可能な限り仕切りのある机に入れ替えたいということと、狭くてやや暗いイメージだった1階閲覧室を、ゆったりとした明るい空間に変えたい、という目標に向けて計画を立てて行きました。幸いメインカウンターと仕切りのある机5台を新規購入することができ、落ち着いて勉強ができる1階南窓際付近には仕切りのある机や1人用キャレル、人の出入りが多い階段近くには、従来のフラットな机を配することにより、グループ利用と個人利用のゾーニングを図りました。2階の不用となった雑誌架を撤去し、念願だった講習会を行うことができるコミュニケーションルームの新設も今回の目玉となっています。什器類については、他の専門図書館やスターバックスから仕切りのある机10台、参考図書書架、カフェ風のテーブルをそれぞれ譲り受けて配置するなど、再利用の物品を活用することで経費削減も心がけました。入館ゲートを入ってすぐ目につく吹き抜け付近には、改修工事の一環として、学生が好んでいる個人席を増やせるということで、カウンター風の作り付け座席を新たに設置することになりました。

5. リニューアルオープン

２０１５年８月６日、待ちに待ったリニューアルオープンの日を迎えました。当日は特にセレモニーは行わなかったのですが、オープン記念として、図書館グッズのエコバッグにリニューアル後の医学図書館の配置図を入れて、入館した先着５０名の方に配布しました。2階のカウンター風座席（ページ上の写真）は当初から人気で、気軽に座って勉強できるカフェスタンドのような雰囲気が気に入ってもらえたようです。それ以外では、1、2階それぞれ仕切りのある机が人気ですが、思惑どおり、1階階段そばのフラットな机はグループで学習する学生が利用しているのをよく見かけます。また、かなり分散していた雑誌を極力まとめて配置したこと、受入開始から10年分、具体的には1986年以前に受け入れた医学関係図書を開架式保存書庫に別置したことにより、ほかの分野に比べて比較的新しい資料を求める医学関係利用者にとって利用がし易くなったかと思います。

今後は、環境が整ったところで、講習会等の目的のため新設した、パソコンとプロジェクターを備えたコミュニケーションルームの一層の活用と、医学図書館ならではの学習支援活動の展開を具体化して行く予定です。

（主任専門職員（医学図書館）　渡辺　雅子）

3 フォーカス（2014年度の特徴的な活動・事業）

3.中央図書館開館時間の延長（試行）

1. はじめに

附属図書館では、2012年度から中央図書館の開館時間延長の試行を段階的に実施しています。今年度は授業期間中の開館時間延長について正式運用を開始、休業中についても期間を通じて開館時間延長の試行を拡充しました。

2. 休業中の延長試行

昨年度は、一部の休業期間（9月、2月）のみ、平日夜間（17:00閉館→20:00閉館）、土日祝日（終日閉館→10:00-18:00開館）の開館延長を実施しましたが、今年度は休業期間中も通しで延長するとともに、土日祝日の開館時間も拡張（9:00-18:00）しました。

この背景には、昨年度実施した利用者アンケートやインタビュー調査において、土日祝日の開館時間の前倒しと休業期間中の開館時間延長の拡充を希望する意見が多かったということがあります。

本稿執筆時点では、春季休業中の結果がまだ判明していませんが、夏季休業中の比較では、昨年度と比較して、今年度は入館者数が約5,800名（17%）増となり、休業中の利用についても一定のニーズがあることが利用実績からも窺えます。

3. 貸出・設備利用時間の延長

授業期間中の開館時間延長の正式運用に伴い、貸出時間や研究個室・セミナー室の設備利用時間もそれぞれ延長しました。とくに設備利用に関しては、平日22:00以降も利用できるようになったことから、利用件数は昨年度よりも約1,988件（15.3%）増加しています。

4. アンケート調査

2015年1月26日～2月16日の間、中央図書館来館者を対象として「ラーニング・スクエアの利用及び開館時間延長に関するアンケート調査」を実施しました。

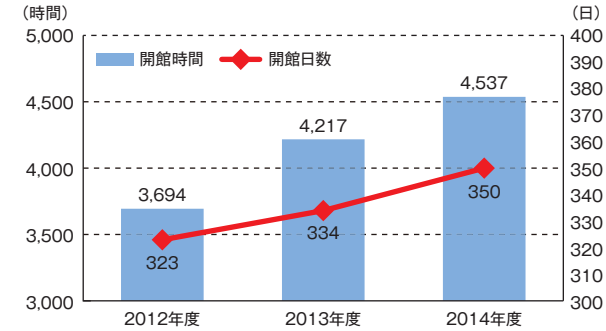
集計結果の概略は次のとおりです。

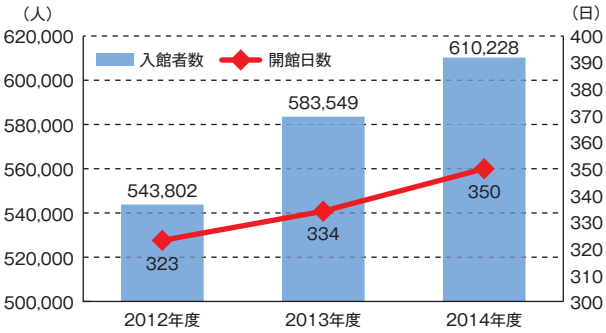
- 回答者数：68名
- 図書館の利用時間：55%が「増えた」、38%が「変化なし」
- 平均的な図書館の利用時間（上位）：1)2～3時間、2)30分～1時間、3)1時間～2時間、4)3時間以上（具体的には5～7時間が多数）
- 授業期間の開館時間延長の評価：75%が「適当」、19%が「さらに延長が必要」
- 休業期間の開館時間延長の評価：66%が「適当」、29%が「さらに延長が必要」
- 貸出時間や設備利用の延長の評価：91%が「適当」

以上のことから、授業期間中のニーズはほぼ満たしていると思われますが、平日の朝（1限前）や土日祝日・休業期間の開館時間の扱いが課題となります。一方で開館時間延長に伴い、図書館管理費の支出も増加していますので、さらなる開館時間延長については、費用対効果も考慮の上で、検討する必要があります。

5. 正式運用の開始

3年間の試行を通じて、中央図書館の利用実績が向上し、利用者からの評価も高く、学生の学習時間の確保・増加を促進するために開館時間の延長が有効であることを示すことができました（参考までに3年間の開館日数・時間及び入館者数の推移を以下に示します）。





2015年度からは、授業期間・休業期間ともに下表のサービス時間にて正式運用を行います。引き続き、皆様の図書館の利用をお待ちしています。

	授業期間		休業期間		休館日
	月～金	土日祝日	月～金	土日祝日	
開館時間	8:30～24:00	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～18:00	年末年始（12/29～1/3）及び本学が定める休業日
貸出時間	9:00～23:30	9:00～19:30	9:00～19:30	9:00～17:30	
研究個室・セミナー室の利用	9:00～23:30	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～18:00	

2015年度からの中央図書館のサービス時間

（情報サービス課長　細川　聖二）

4.はじめての学生選書ツアー

1. 学生選書ツアーの概要

学生選書ツアーとは、学生が直接書店に出向いて図書館に置きたい本を選ぶイベントです。

附属図書館では、学生のニーズを反映し図書館資料の利用促進を図るため、2014年度に初めて学生選書ツアーを開催しました。

初めてのツアーは、2014年7月9日(水)に友朋堂書店桜店において行いました。参加者は学群生を対象として事前に募集し、当日は7名の参加がありました。理系から文系までさまざまな学類から参加があり、男女比もほぼ半々と、幅広い層から関心を持たれたことが窺えます。選定する図書の基準は、大学生の学習·教養に役立つ図書や、多くの学生に利用して欲しい図書とし、今回は学生のニーズを把握したいという面もあり、通常の選定では購入していなかった小説や語学教材、就職関連図書も選定できることとしました。

1人当たり冊数は10冊まで、金額は計3万円まで選定できることとしました。

当日は書店に集合し、簡単な説明の後に選定を開始しました。書店内では事前に準備してきたリストを見ながら本を探す人、スマートフォンで図書館の所蔵を確認する人、慎重に内容を読み込む人と様々で、それぞれ真剣に選書に取り組んでいました。

選書後は店内のスペースで、お薦めの図書について紹介するPOPの作成も行い、こちらも熱心に取り組んでもらうことができました。

選ばれた図書はそれぞれの興味関心を反映してバラエティに富んだ内容となりました。全体に良質な入門書が多く、軽い内容のものは予想より少ない印象でした。選定図書は既に図書館に所蔵しているものを除き、計39冊を購入しました。

2. 展示

選定された図書は、7月24日(木)～8月8日(金)に、中央図書館2階メインカウンター前で展示しました。

学群学生の目線で選ばれた図書を、選定者作成のPOPと共に紹介しました。夏休み直前の短い期間ではありましたが、展示2日目までに半数以上が借りられるなど、貸出も順調でした。

3. アンケートから

参加者を対象に実施したアンケートでは、図書館資料への要望として、小説や語学·就職関連の実用書等への希望が複数見られました。また、ラーニング·スクエアの使い勝手など、図書館についてのさまざまな意見を聞くこともできました。

選書ツアーについては、全ての参加者からまた参加したいとの回答がありました。

附属図書館としても、学生のニーズを把握する場として、今後も引き続き開催していきたいと考えています。

(選書担当係長　高島　恵美子)

3 フォーカス（2014年度の特徴的な活動・事業）

5.体芸図書館における展示

体育･芸術図書館では、今年度新たな試みとして、2階メインカウンター前に展示エリアを設け、芸術分野の企画展を6回開催しました。

第1号となったのが、「『ゴブリン博士の病院ゴブリン』アーカイブ展（6/24-8/31）」です。これは、アーティストの小中大地さん（芸術系研究員）が、筑波大学附属病院で行ったアート活動の記録を紹介したものです。病院内のさまざまなモノを擬人化して小さな人形（ゴブリン）を創作するプロジェクトで、パネルには作品の写真や報告書、壁画が配置されました。マスキングテープを使い、ライブペインティングのかたちで描かれたゴブリン達の壁画は、多くの来館者の目を楽しませてくれました。8月の大学説明会では、前年度の約5倍の図書館見学者を集め、本学の卒業生の活動を紹介する企画として受験生にとっても、良い刺激となったようです。

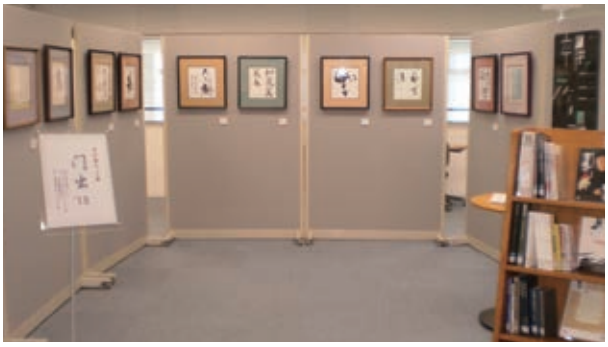
あとに続く3つの写真展は、芸術専門学群構成専攻の学生さんによる個展です。「時に揺れる（10/1-10/21）」は、長時間露光という撮影技法を用いて、過ぎていく時間の中に広がる昼と夜の情景を撮影したものです。「IWAMIZAWA（10/30-11/19）」は、北海道の短い夏の終わりの寂しさや澄んだ空気感を表現したもの、「ESTONIA-北より南、東より西-（11/28-12/18）」は、留学生の作品で母国のエストニア･フィンランド･ラトヴィアの風景や人物を撮影したものです。これらの作品が作り出す視覚に訴える空間は、来館者の創造力を育て、書架やPCが並ぶ大学図書館という無機質な場所を、明るく安らぎや親しみのある空間へと変えてくれました。

「ゴブリン博士の病院ゴブリン」アーカイブ展（助成:文化庁平成26年度「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成）

「時に揺れる」写真展より

「IWAMIZAWA」写真展より

「ESTONIA」写真展より



新春書コース展「門出'15」

「ピリヴィ写真展-知られざる19世紀フランス洋食器の美」より（助成:文化庁 平成26年度「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成）

1月に開催した「新春書コース展『門出'15』」（1/5-1/30）」は、今春卒業予定の芸術専門学群4年生10名による初のグループ展でした。漢字、仮名、調和体と各ジャンルにわたる作品は、清新な年の始めを彩りました。

その後、芸術系芸術支援齊藤泰嘉研究室による「ピリヴィ写真展-知られざる19世紀フランス洋食器の美-（2/2-3/30）」を開催しました。これは、山口県の歴史ある料亭旧菜香亭で明治期に使用されていたもので、19世紀後半に製造された貴重なフランス、ピリヴィ社の食器を写真パネルで紹介したものです。この展示では、菜香亭の洋食の歴史や当時のメニュー、歴代主人についての説明パネルと共に、現在は市民交流施設となっている「山口市菜香亭」の動画も紹介しました。

これらの企画展では、職員が体育･芸術図書館の蔵書の中から、それぞれのテーマに合った図書を選び、貸出可能な関連図書コーナーを作りました。

図書館という学習の場での展示は、学内の芸術活動を日常的に実感できる場としてとても効果的です。関連する図書を展示することで、作品に対する興味や理解も深まります。

体育･芸術図書館は、筑波大学の特色のひとつである体育･芸術分野の教育研究をサポートする図書館として、今後も教職員や学生との関わりを密にし、大学による文化芸術活動を支援し、広めていきたいと考えています。

（主任専門職員（体育・芸術図書館）　中村　洋子）

6.平成26 年度筑波大学附属図書館企画展「図書館を飛び出した書物たち」

2014年度は、筑波大学附属図書館の主催による企画展「図書館を飛び出した書物たち」を、10月20日(月)から11月21日(金)まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

今年度の企画展は、附属図書館職員の発案によって企画され、附属図書館職員9名のワーキンググループが、研究開発室のプロジェクトを担当する人文社会系谷口孝介先生と山澤学先生の指導･助言を得て実施にあたる体制となりました。

今回のテーマは資料の活用でした。筑波大学附属図書館が所蔵する貴重な資料は、来館して直接閲覧利用するほかに、本文のテキストや図版を出版物に掲載したり、テレビ番組やWebページでの画像利用がなされています。今回の企画展では、こうした利用方法に着目し、過去の利用実績から、よく使われた資料、特色ある資料を選定し、それが掲載された出版物等とあわせて展示することで、貴重な資料の活用の状況をご覧いただくこととしたものです。「図書館を飛び出した」というタイトルもこうした活用の仕方を象徴したものとなっています。

今回の企画展では、資料の活用という観点から、原本を当館で所蔵していないが教育･研究上重要な複製本･レプリカも展示しました。例えば、グーテンベルク42行聖書の展示では、その零葉(書物の一部分)を展示するとともに、当時の装丁や印刷を再現した複製本を展示し、全体像も併せて見ていただけるようにしました。

また、11月9日に開催した谷口先生による講演会では、複製本の用い方をテーマとして、今回展示した土佐日記や枕草子などの複製本を題材にしてお話をいただきました。

これまでの特別展･企画展は、資料の内容とテーマが密接に結びついたものでしたが、今回は資料の利用という側面からのアプローチとなり、バラエティに富んだ資料を展示することとなりました。高校生から一般の方までを対象とした、所蔵資料の公開という面が強い展覧会となり、期間中の来場者は1,836名となりました。

第1部「いつかどこかで見た書物」では、古今和歌集や土佐日記、枕草子などの古典から夏目漱石の坊っちゃんまで、教科書や雑誌などでだれもが目にしたことのある資料の原本や複製本を展示しました。

第2部「お墨付きの古典籍」では、当館所蔵本が新編日本古典文学全集(小学館)の底本として採用された新古今和歌集や当館の所蔵から翻刻本が出版されている昌平坂学問所日記など、多くの研究者によって活用され、その学術的な価値を認められた資料を、それに「お墨付き」を与えた研究書･翻刻本とともに展示しました。

第3部「メディアに飛び出した書物」では、テレビ放映や分冊刊行の雑誌への掲載など、さまざまなメディアで利用されるようになった資料を展示しました。江戸切絵図や鯰絵、教育錦絵など多色刷りの資料は、当館で電子化公開しているカラー画像の利用によるもので、近年利用が増加しています。

学園祭期間中の11月2日には、山澤先生によるギャラリートークを行いました。講演会とギャラリートークはその映像をYouTubeで公開しています。

今回の企画展では、展示資料の選定、資料の解説の作成、展示箇所の指定などをほぼ職員が行っています。解説を書くのが初めてという職員も多く、貴重な経験となりました。その結果は図録で見ていただくことができます。また、職員のデザインによるポスターやちらしのほか、南総里見八犬伝の表紙等をモチーフにデザインした7種類の栞を作成し、貸出図書と一緒に配布する等の広報を行い好評を得ることができました。

今回の経験を生かして今後も貴重資料の公開を進めていきたいと思います。

電子展示「図書館を飛び出した書物たち」

URL:http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2014shomotsu/index.html

(企画展WG主査　山本　淳一)

観覧中の永田学長

今回配布した栞

4 資料紹介

聖語蔵経巻（請求記号 183-ku41）

A：毎年秋に奈良国立博物館で開催される正倉院展が好きで、見逃さないようにしているのですが、彩り鮮やかな正倉院宝物に陶然と見とれて会場終盤に来ると、その一角に毎回ちょっと異質な展示があります。分類もよく見ると、正倉院の北倉・中倉・南倉とは別立てで、「聖語蔵2-6」とかの分類記号が付されています。昨年の展示でも「四分律」「摂大乗論釈論」「浄飯王般涅槃経」などというお経らしき巻物が3件展示されていました。正倉院宝物というと「天平文化」というイメージがあるので、これらもごく単純に「正倉院にある天平写経」の類と勝手に思っていました。でもいつも気になっていたのは、これらのお経が他の文書類とは別立てに、必ず最後のスペースに置かれていることや、そもそも分類の「聖語蔵」ってなんなのかということです。

B：細かなところまでよくご覧になっていますね。展覧会で巻物の展示の箇所は往々にして混み合うものですが、正倉院展の最後のあの箇所はいつもじっくり見ることができますよね。まあ華麗な工芸品などに比べると、どうしても地味な印象を与えがちです。その「聖語蔵」ですが、ショウゴゾウと呉音で読みます。

A：仏教用語ということですよね。

B：その通りです。言うまでもなくお経ですからね。お経というのはブッダのことばを集めたもの、「聖語」もつまりは「尊い方のおことば」ということです。「蔵」は「くら」には違いないのですが、これもサンスクリット語「ピタカ」の中国語訳で、「かご」を意味するそうです。大切なものを被い包むイメージで、ブッダのことばをくるんで集めたもの、引いてはすべての仏教経典の意味で使われるようになった語です。

A：だから「聖語蔵」と言って、「聖語倉」などとは言わないのですね。

B：「三蔵法師」や「大蔵経」などという「蔵」と同じです。そもそもこの聖語蔵と呼ばれる一群のお経は、元来東大寺の院家尊勝院にあったものです。正倉院の西側、転害門（てがいもん）から東大寺に入ったあたり、現在皷阪（つざか）小学校があるあたりにあったお寺です。

A：あのあたりは静かなエリアですね。大仏殿の喧噪とはうってかわった様子で、とても同じお寺のなかとは思えません。それで、院家って東大寺とは違うのですか。

B：古代の大寺院はいずれも多くの僧侶が合宿所のような僧坊に居住していたのですが、平安時代あたりから、寺域内に自坊を開きそこに居住するようになります。尊勝院は、天暦4(950)年に創建されましたが、いったん衰微した後、正治2(1200)年に第13代院主弁暁の手により復旧されました。じつは聖語蔵も弁暁が収集した経典群を中心としてその後尊勝院が集積した経典群なんです。

A：聖武天皇遺愛品を中核とした、あの正倉院宝物とはまったく由来の違うものなのですね。

B:尊勝院は室町時代末に滅びてしまって、別のお寺が管理していたのですが、明治27(1894)年に経蔵ごと皇室に献納され、現在の正倉院正倉の南側に移築されたのです。聖語蔵経巻は正倉院宝物とともに宮内庁正倉院事務所が管理することとなりました。

A：正倉院展でのあの微妙な展示の位置は聖語蔵の歴史に由来するものなのですね。

B：聖語蔵経巻の面白さはその時代層の厚さです。長い時間を掛けて集積してきたものですから、時期的にも種別のうえでもさまざまな経典群が存在しています。たとえば昨年度の正倉院展の3件も唐経、光明皇后の天平十二年御願経、称徳天皇の神護景雲二年御願経とそれぞれの群から1巻ずつ出陳されているのです。

A：そう言えば同じ奈良時代のお経と言っても、受ける印象はまったく違ったものでした。それにしても中国唐代の写経がまとまって残っているなんて奇蹟的ですよね。

B：そうです。唐抄本と呼ばれるもので、断簡を含めても数えるほどです。もちろんほとんどが国宝級です。聖語蔵にはさらに前代の隋経も残っているのですよ。6、7世紀の肉筆をまとめて見られるわけですから、文字資料としての価値は量り知れません。もちろん中国には残っていません。経典を活字で読んだり、語を検索したりするには『大正新脩大蔵経』があり、近年はそのテキストデータも完備しています。でもこれらは近代の目で整理したテキストであって、経典の原姿はそこからは窺いにくいものです。しかも一巻の経巻にはそれを伝承してきた人々の痕跡が残っているのです。

A：そう言えばよく見ると文字を修正したようなところや白やら朱やらで点がうってあったりします。

B：それはその経巻を勉強した古代の学僧たちの証が書き込まれているのです。平安時代のごく初期あたりの書き込みが存していて他に類を見ないものなのです。

A：だからこそ聖語蔵経巻を画像データとして出版する意義があるんですね。「央掘摩羅経」というお経の巻末の画像を見ると、「大正九年十一月修理之」の後に「帝室博物館総長森林太郎」（森鷗外の本名）と修理が完成したことを一々博物館総長がサインをしている様も分かります。これも今となっては貴重な歴史記録ですよね。

神護景雲二年御願経 央掘摩羅経巻一、修理奥書、宮内庁正倉院事務所編『宮内庁正倉院事務所所蔵 聖語蔵経巻』丸善

B：聖語蔵経巻の画像データはさまざまな分野で価値を持ちます。いままで一握りの研究者にしか実見が許されなかった経巻の様態が、手に取るように知られるのですから、古代の日本語の実態、経典の形成史から鎌倉時代に及ぶまでの教学の流伝など、今後この資料を用いることで新見が披露されてゆくことでしょう。

A：まだまだお話を伺いたいのですが、そろそろお時間ですので、今日はこのあたりにしたいと思います。ありがとうございます。

B：大事なことでお話しできなかったことも多いのですが、まずは実際に聖語蔵経巻を眺めてみてください。きっといろんな発見がありますよ。こちらこそありがとうございます。

（副館長／人文社会系教授　谷口　孝介）

「聖語蔵経巻」は、中央図書館2F CD-ROM専用パソコンにてご覧いただけます。

1.イェール大学図書館およびマサチューセッツ大学（UMass）アマースト校図書館訪問

2014年10月5日から10日にかけて、嶋田晋情報サービス課主任、千葉大学の谷菜穂氏とともに、アメリカのイェール大学図書館およびマサチューセッツ大学（UMass）アマースト校図書館を訪問しました。

今回の訪問は、嶋田主任が、国立大学図書館協会海外派遣事業の派遣者として、「北米大学図書館におけるニーズ調査とシーズ提供の方策の調査」というテーマで千葉大学附属図書館の谷奈穂氏と共同研究を行うために実施したものです。このテーマのもとに、イェール大学図書館とUMassアマースト校図書館において、利用者ニーズの調査をどのようにして行っているのか、また、図書館リソースをどのようにサービスとして提供しているかについて調査を行いました。

●イェール大学図書館

イェール大学はコネティカット州ニューヘイブンにある私立大学です。アメリカでは、現存する大学で3番目に長い歴史を持ち、アイビーリーグの1校でもあります。スターリング記念図書館をはじめとする15の図書館を擁し、約1,500万点にのぼる蔵書数は大学図書館において世界第2位を誇ります。

ここでは、主としてイェール大学が過去に行った利用者調査に関するインタビューを実施し、調査分析の方法や利用者ニーズの把握手法についての知見を深めることができました。

また、各学生に専属で図書館職員が入学時からサポートを行うパーソナルライブラリアンプログラムや、図書館に関わる様々なデータを分析してニーズ把握や運営方針のための根拠を提供するアセスメントライブラリアンなどについても話を伺うことができ、たいへん参考になりました。

訪問では特に、「図書館員は外に出なければならない」と述べる音楽図書館の職員の方の言葉が印象的でした。院生の行動を把握する調査を実施し、その結果、図書館内にピアノを設置する、図書館外にある学生の共同スペースに図書館員が出向くなどの方策を計画・実行する彼女の話からは、図書館職員は図書館内だけでなく図書館の外に出てサービスのPRや提供を行い、図書館利用の向上と活性化を図っていかねばならないということの重要性を感じることができました。

●マサチューセッツ大学（UMass）アマースト校図書館

マサチューセッツ大学はアマースト校のほかボストン校など合計5つの大学からなる州立大学で、それぞれの大学は独自に運営されています。今回訪問したアマースト校はマサチューセッツ州アマーストに位置しています。規模や歴史的経緯からマサチューセッツ大学の旗艦校とされており、公立大学として高いランクにある大学としても知られています。

UMassアマースト校の図書館は、約700万点の蔵書を有しており、中央館にあたるW.E.B. Du Bois Libraryは、キャンパスのほぼ中心に位置する26階建てのビルです。一部図書館が運営しない施設が入っているものの、ほぼ全て図書館の施設であり、図書館としては世界で2番目に高く、大学図書館としては世界一高い建物であるとされています。

UMassアマースト校図書館の訪問では、初めに嶋田主任と谷氏により筑波大学・千葉大学における特徴的な取り組みやサービスの紹介が行われました。アマースト校の図書館職員との意見交換も実施され、私達が彼らの図書館について知りたがっているのと同様に、先方も日本の大学図書館について知りたがっているということがわかりました。

その後行われた視察では、Learning　Commons、教員に対する支援サービスを行うTeaching Commons、学生にチュータリングを行うLearning Resource Center、学生の論文・レポート作成を支援するライティングセンター、メディア機材やサービスを提供するDigital Media Lab、チームを基盤として学生が能動的に学習を行うTeam Based Learningと呼ばれる授業を行う教室など、図書館の中で提供されている様々な設備・サービスについて案内していただき、その概要と利用状況を確認することができました。Teaching Commonsでは、弁護士資格と司書資格を持った専門のCopyright Librarianが対応するという、北米でも類を見ないサービスが提供されており、興味深く話を伺いました。

UMassアマースト校では、「図書館は大学の中心である」という認識が全学の基調として存在していることが印象的でした。立地としても大学の中心にありましたが、文系でもなく理系でもない組織、すべての学生・教員が立ち寄りやすい組織という図書館の性質を大学の各部署も認知しており、Teaching Commonsやライティングセンターなどが図書館内に設置されることで、図書館という場が利便性、集客力の両面から有効に作用している一端をみることができました。

●2つの図書館を訪問して

今回訪問した2大学では共通して、利用者にとって何が必要なのかをまずはよく知ること、知った上でそれにあわせて図書館はどんなサービスが提供できるのかを考えることの意義を改めて確認することができました。具体的なサービスを実施する際には図書館独力で行うことが必ずしも必要ではなく、むしろ適切な組織と連携することも重要であるという認識も新たにしました。今回の訪問から、図書館の内だけでなく図書館の外にも積極的に目を向け、学生や教員にとって必要なサービスとは何であるのかを、今後筑波大学図書館でサービスを運営していく上でさらに考えていきたいと思います。

（図書サービス担当　傳　絢奈）

5 職員の活動

2.論文発表･研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修･シンポジウム等における講師･事例発表等の活動記録です。

1.執筆活動

村尾 真由子, 松原 悠, 洪 昇基, 佐藤 良太, 秋山 茉莉花, 金 瑜眞, 嶋田 晋, 金井 雅仁, 浜島 佑斗. 筑波大学附属図書館ラーニング･アドバイザーの活動. 大学図書館研究. 2014, Vol.101, p.108-118.

論文要旨：
筑波大学附属図書館では、2012年度から大学院生をラーニング・アドバイザー(以下、LA)として雇用し、学生サポートデスクにおいて本学学生に対する学習支援活動を行っている。学生サポートデスクの利用者は年々増加している。2013年度は、LAからの要望で定期的にミーティングが開かれ、アイデアを出し合う機会が増えた。これが契機となってLAの活動が活発化し、前年度の活動に加え新たに6つの企画を実施した。今後は、学生のニーズや学生サポートデスクの認知度の調査のような現状を把握する取り組みや、LAの相談対応の質を向上させる取り組みが求められる。
→Webでフルテキストを入手できます。
つくばリポジトリ URL
http://hdl.handle.net/2241/00124243

真中 孝行. “E1574 - つくばリポジトリのJAIRO Cloudへの移行”. カレントアウェアネス-E. No.261 2014.06.19. http://current.ndl.go.jp/e1574, (参照2015-04-09).

→Webでフルテキストを入手できます。
カレントアウェアネス・ポータル
http://current.ndl.go.jp/e1574

加藤 信哉.≪特集:平成25年度日本薬学図書館協議会研究集会≫大学図書館の研究支援.薬学図書館. 2014, Vol.59, No.2, p.91-99.

論文要旨：
本稿では、大学図書館に求められる機能・役割を確認し、オープンアクセスの進展と情報発信について展望する。また、英国の研究支援に関連する最近の調査報告とロンドン大学キングズカレッジ図書館サービスによる研究支援の事例を紹介し、最後に今後の大学図書館の研究支援について検討する。
→Webでフルテキストを入手できます。
つくばリポジトリ URL
http://hdl.handle.net/2241/00121966

加藤 信哉. 特集★大学図書館 2014：機関リポジトリ推進委員会の活動について-大学の知の発信システムの構築に向けて-.図書館雑誌.2014,Vol.108, No.12, p.796-799.

→Webでフルテキストを入手できます。
つくばリポジトリ URL
http://hdl.handle.net/2241/00122957

加藤 信哉.“7 大学図書館と電子ジャーナル”.電子書籍と電子ジャーナル.日本図書館情報学会研究委員会編.東京,勉誠出版,2014, p.129-140.

2013年度ラーニング･アドバイザー

中央図書館エントランスで館長・副館長と

2.講師・事例報告

開催日	氏　名	催し名　【テーマ・レジュメ・参考URL】
2014.4.12	加藤　信哉	第3回みちのく図書館情報学研究会 【テーマ】シェアード・プリント
2014.4.17	加藤　信哉	図書館等を活用した電子書籍を含むデジタルアーカイブに関するラウンドテーブル 【テーマ】大学図書館とデジタルアーカイブ
2014.5.29	真中　孝行	国立情報学研究所 学術情報基盤オープンフォーラム2014「JAIRO Cloud の描く未来」 【テーマ】既構築機関からの移行実験 【レジュメ】http://www.nii.ac.jp/csi/openforum2014/docs/c-2_manaka.pdf
2014.6.16	真中　孝行	JAIRO Cloud 講習会 【テーマ】機関リポジトリの学内整備について／著作権について
2014.9.9	斎藤　未夏	平成26年度国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー 【テーマ】電子リソースと機関リポジトリー業務の実際とこれからー
2014.9.19	加藤　信哉	広島県大学図書館協議会　平成26年度第1回研修会 【テーマ】ラーニング・コモンズ:大学図書館の学習支援
2014.11.1	加藤　信哉	第100回全国図書館大会東京大会　第5分科会　大学図書館 「大学の知の発信システムの構築～機関リポジトリの更なる発展をめざして～」 【テーマ】機関リポジトリ推進委員会の活動について
2014.11.1	真中　孝行	第100回全国図書館大会東京大会　第5分科会　大学図書館 「大学の知の発信システムの構築～機関リポジトリの更なる発展をめざして～」 【テーマ】既存機関リポジトリからのJAIRO Cloudへの移行（筑波大学機関リポジトリ:つくばリポジトリ）
2014.11.6	加藤　信哉	第16回図書館総合展フォーラム「大学の知の発信システムの構築に向けて」 【テーマ】大学の知の発信システムの構築に向けて 【レジュメ】http://id.nii.ac.jp/1280/00000016/
2014.11.7	加藤　信哉	第16回図書館総合展フォーラム「専門書出版社と大学図書館」 【テーマ】筑波大学附属図書館における新刊学術図書の収集について
2014.12.6	加藤　信哉	第6回みちのく図書館情報学研究会 【テーマ】大学図書館における学習スペースを巡って
2014.12.17	原澤　仁美	平成26年度関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会 兼 埼玉県大学・短期大学図書館協議会第26回研修会 【テーマ】進化する図書館ボランティア
2015.1.28	嶋田　晋	平成26年度国立大学図書館協会シンポジウム 「学生の学習活動を促すもの－実践と理念としてのラーニング・コモンズ」 【テーマ】学生が学習しやすい仕掛けを作るには?　－UMassでの調査報告－（マサチューセッツ大学アマースト校） 【レジュメ】http://www.janul.jp/j/operations/symposia/2014/14sympo4_Bunkakai5_shimada.pdf
2015.1.28	加藤　信哉	France/Japan Joint Meeting on Open Access 【テーマ】Japanese Academic Libraries: Some Basic Facts and the Structure
2015.2.20	真中　孝行	機関リポジトリ新任担当者研修 【テーマ】コンテンツ構築のルーチン 2

3.職員研修会

2014 年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計 22 回行いました。

日時・場所 テーマ	講師	参加人数
2014.5.16, 5.19-21, 5.23　会議室		
新人職員研修		対象5名
2014.4.22　集会室		
第1回コアスタッフ勉強会 「シェアード･プリント」	加藤　信哉(副館長)	対象30名
2014.5.27　集会室		
第2回コアスタッフ勉強会 「貸出はなぜ減り続けるのか」	大久保　明美(情報サービス課副課長) 山本　淳一(情報管理課副課長) 斎藤　未夏(情報管理課(企画渉外))	対象30名
2014.6.24　集会室		
第3回コアスタッフ勉強会 「GIFプロジェクトの現状と今後について」	細川　聖二(情報サービス課長)	対象30名
2014.7.23　集会室		
障害学生支援研修(1) 「大学における障害のある学生の修学支援について ～合理的配慮の考え方と今後の課題～」	竹田　一則(障害学生支援室長、人間系教授)	32名
2014.7.29　集会室		
第4回コアスタッフ勉強会 「利用者との対話@図書調達室」	高島　恵美子(情報管理課(選書)) 安島　明美(情報管理課副課長) 鴨志田　美由喜(情報管理課(雑誌受入))	対象30名
2014.7.30, 31　コミュニケーションルーム		
Lexis.com講習会	湯川　明子(レクシスネクシス･ジャパン)	11名
2014.9.8　集会室		
障害学生支援研修(2) 「視覚障害者の理解と支援」	森　まゆ(障害学生支援室、人間系助教)	34名
2014.9.30　集会室		
第5回コアスタッフ勉強会 「大学図書館著作権検討委員会の取組」	北村　照夫(情報管理課長)	対象30名
2014.10.21　集会室		
学習支援関連ワークショップ報告会(1) 「学生協働ワークショップin東京2014」 「金沢出張報告」	赤木　紗菜、坂井　彩希、 山本　祥子(ラーニング･アドバイザー) 松野　渉(情報サービス課(レファレンス))	20名
2014.10.28　集会室		
第6回コアスタッフ勉強会 「専門図書館特集」 【体芸】体芸図書館での企画展示の取組 【医学】耐震改修工事を終えて 【図情】図情図書館小話 【大塚】大塚図書館の現状と課題	中村　洋子(情報サービス課(体芸)) 渡辺　雅子(情報サービス課(医学)) 山中　真代(情報サービス課(図情)) 上原　由紀(情報サービス課(大塚))	対象30名

入館ゲートをリニューアル

2014.11.20　集会室		
障害学生支援研修(3) 「聴覚障害のある学生への修学支援」 「発達障害のある学生への修学支援」	有海　順子(障害学生支援室、人間系助教) 青木　真純(障害学生支援室助教)	35名
2014.11.26　集会室		
第7回コアスタッフ勉強会 「(総務部)総務課の業務について」	掛札　勇一(情報管理課副課長)	対象30名
2014.11.27　集会室		
図書館員のための「研究評価」指標の基礎知識 ーインパクトファクターからオルトメトリクスへー (平成26年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修会) 「『研究評価』指標のこれまでとこれから」 「オルトメトリクスとは何か」	池内　有為(図書館情報メディア研究科) 吉田　光男(豊橋技術科学大学情報･知能工学系助教)	38名
2014.12.5　集会室		
海外出張報告会 「Yale&UMass図書館訪問報告」 「ピッツバーグ大学図書館訪問報告」 「ICOLC2013春　参加報告」	傳　絢奈(情報サービス課(図書サービス)) 西島　悠策(図書館情報エリア支援室(学生支援)) 斎藤　未夏(情報管理課(企画渉外))	20名
2014.12.17　集会室		
第8回コアスタッフ勉強会 「2つのJ ーJUSTICE & JAIRO Cloudー」	峯岸　由美(情報管理課(電子リソース)) 真中　孝行(情報管理課(リポジトリ))	対象30名
2015.1.29　集会室		
第9回コアスタッフ勉強会 「今更きけないNII ー細川課長になんでも聞いてみよう!ー」	細川　聖二(情報サービス課長)	対象30名
2015.2.24　集会室		
第10回コアスタッフ勉強会 「2014年度を振り返る」	原澤　仁美(情報管理課(見学･ボランティア)	対象30名
2015.3.3　集会室		
附属図書館研究開発室研究成果報告会	歳森　敦(図書館情報メディア系教授) 宇陀　則彦(図書館情報メディア系准教授) 細川　聖二(情報サービス課長／学習支援推進WG) 石津　朋之(情報管理課(企画渉外)／学習支援推進WG) 松野　渉(情報サービス課(レファレンス)／学習支援推進WG) 逸村　裕(図書館情報メディア系教授) 加藤　信哉(副館長)	44名
2015.3.9　集会室		
西洋初期刊本整備の実際　ー保存と目録ー	中井　えり子(名古屋大学附属図書館研究開発室)	20名
2015.3.13　集会室		
学習支援関連ワークショップ報告会(2) 「平成26年度国立大学図書館協会シンポジウム報告」 「アカデミック･リンク･シンポジウム報告」	岩本　悠(情報管理課(電子図書館)) 石津　朋之(情報管理課(企画渉外)) 松野　渉(情報サービス課(レファレンス))	20名
2015.3.17　集会室		
第11回コアスタッフ勉強会 「39年 8大学での大学図書館勤務を振り返って」	加藤　信哉(副館長)	対象30名

6 トピックス

1.サービス・活動

日　付	内　容
2014.4.1	（中央図書館）学期中の開館時間延長正式運用開始 （月～金　9:00～22:00→8:30～24:00 土日祝日　10:00～18:00→9:00～20:00）
2014.8.9～9.30 2014.12.27～12.28 2015.1.4 2015.2.17～3.31	（中央図書館）休業期間における臨時開館・開館時間延長試行 （月～金　9:00～17:00→9:00～20:00 土日祝日　終日閉館→9:00～18:00）
2014.4.16	「かゆいところに手が届く!図書館小技集」を公開（2013 年度ラーニング・アドバイザー企画）
2014.4.21～2015.1.23	（中央図書館）エントランスホールでの学生交流企画 プレゼンひろば（主催：つくば院生ネットワーク）
2014.4.23～2015.1.25	（中央図書館）公開講座「ソクラテス・サンバ・カフェ」（主催：人文社会科学研究科哲学・思想専攻）
2014.5.21	つくばリポジトリを JAIRO Cloud へ移行
2014.6.3	（中央図書館）附属図書館講演会「博士論文インターネット公開の基礎知識」開催
2014.6.30	教員推薦学生用図書（試行）を開始
2014.7.9	学生選書ツアーを開催
2014.7.10～7.11	台風のため 17:00（大塚図書館は 20:00）に臨時閉館 翌日は 13:30（大塚図書館は 13:00）まで臨時閉館
2014.8.6	医学図書館をリニューアルオープン
2014.8.20	（中央図書館）公開講座「図書館アドベンチャー　―本の森でブックハント―」実施 （主催：図書館情報メディア研究科）
2014.8.28	（中央図書館）国立国会図書館デジタル化資料送信サービス専用端末を設置
2014.10.1	附属図書館 Web サイトのトップページをリニューアル
2014.10.6	台風のため 15:00 まで臨時閉館
2014.11.1	（中央図書館）平日（学期中）の貸出サービス時間を23:30までに延長（本館2階自動貸出装置のみ） 土日祝日の貸出サービス時間を 9:00 からに前倒し
2014.11.18	（中央図書館）LA セミナー「文献管理しナイト! - 院生の ” 自分流 ” から探るテクニック -」を開催 （2014 年度ラーニング・アドバイザー企画）
2014.12.2	（中央図書館）プレゼンテーションセミナー 2014「筑波大学 No.1 プレゼンターから プレゼンテーションの極意を盗む」を開催（つくば院生ネットワークとの共催）
2014.12.4	平成 28 年度以降の電子ジャーナル等の整備方針決定
2014.12.11	（中央図書館）「英語論文の書き方」と「EndNote の使い方」セミナーを開催 （株式会社ユサコ・カクタス・コミュニケーションズ株式会社）
2014.12.16～2015.2.28	“Oxford English Dictionary（OED）Online” トライアルを実施
2015.1.24	（大塚図書館）「英語論文の書き方」と「EndNote の使い方」セミナーを開催 （株式会社ユサコ・カクタス・コミュニケーションズ株式会社）
2015.1.26／1.29	（中央図書館）LA セミナー「社会科学系院生による量的・質的研究法ビギナー講習会」を開催 （2014 年度ラーニング・アドバイザー企画）
2015.1.26～2.16	「ラーニング・スクエア」の利用及び開館時間延長に関するアンケート実施
2015.1.27	（医学図書館）「英語論文の書き方」と「EndNote の使い方」セミナーを開催 （株式会社ユサコ・カクタス・コミュニケーションズ株式会社）
2015.3.3	研究開発室研究成果報告会を開催
2015.3.16	（中央図書館）国立国会図書館歴史的音源サービス専用端末を設置
2015.3	学術論文データベース Web of Science のバックファイル（2分野）、電子ジャーナル（Wiley, Oxford University Press）のバックファイル、電子ブック（Springer, Elsevier, Blackwell）を購入

休業期も開館時間を延長

2.企画・展示

日　付	内　容
中央図書館　展示	
2014.2.10～4.18	企画展「附属図書館オリジナルグッズデザイン募集応募作品展」
2014.3.10～4.25	企画展「震災から学ぶ本棚 3.0」
2014.3.24～4.22	僕らの夏休み Project・Tsukuba For 3.11・みにぷろ三団体合同企画 （主催：「僕らの夏休み Project 筑波支部、Tsukuba For 3.11、みにぷろ）
2014.4.23～5.23	企画展「書 Book + Calligraphy Exhibition 2014」（国際書道クラブとの共催）
2014.5.26～6.23	3 拠点からグローバル人材を育てる　～平成 25 年度　筑波大学附属学校からの発信～
2014.6.16～7.2	あなたからクローバリーぜーしょん !!　6 月 20 日は世界難民の日 （主催：CLOVER ～難民と共に歩むユース団体～）
2014.7.24～8.8	企画展「学生選書ツアーに行ってきました!」
2014.9.30～10.31	「現実食視」世界食料デーイベント 2014 つくば （主催：TABLE FOR TWO 筑波大学）
2014.9.30～11.4	僕らの夏休み Project の活動内容及び震災について （主催：僕らの夏休み Project 筑波大学支部）
2014.10.20～11.21	平成 26 年度附属図書館企画展「図書館を飛び出した書物たち」
2014.11.1～11.3	近未来図書館これくしょん　（図書館情報メディア研究科宇陀・松村研究室と共催）
2015.1.19～1.23	Book Shelf Surprise!（主催：3Ecafe プロジェクトチーム）
2015.3.11～4.30	Community Book Shelf（主催：3Ecafe プロジェクトチーム）
2015.3.19～4.23	企画展「書 Book + Calligraphy Exhibition 2015」（国際書道クラブとの共催）
2015.3.24～4.24	東日本大震災から 4 年　～現状とこれから～ （主催：僕らの夏休み Project 筑波支部、Tsukuba For 3.11）
体芸図書館　展示	
2014.6.24～8.31	「ゴブリン博士の病院ゴブリン」アーカイブ展　（芸術系 小中大地） （助成：文化庁　平成 26 年度「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成）
2014.10.1～10.21	時に揺れる - 長時間露光による写真展 -　（芸術専門学群学生）
2014.10.30～11.19	IWAMIZAWA 写真展　（芸術専門学群学生）
2014.11.28～12.18	ESTONIA - 北より南、東より西 - 写真展　（芸術専門学群学生）
2015.1.5～1.30	新春書コース展「門出’15」（芸術専門学群書コース 4 年生）
2015.2.2～3.30	ピリヴィ写真展 - 知られざる 19 世紀フランス洋食器の美 -　（芸術系 齊藤泰嘉研究室） （助成：文化庁　平成 26 年度「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成）
図情図書館　展示	
2014.1.27～11.28	企画展「図書館総合展ポスター展示」
2014.3.31～4.21	ミニ展示「武士の献立」
2014.6.13～9.1	和古書さまざま　（綿抜豊昭　知的コミュニティ基盤研究センター長）
2014.9.2～2015.3.17 2014.9.12～2015.2.27	秋なのに蝉丸展　（綿抜豊昭　知的コミュニティ基盤研究センター長） 関連展示（図情図書館）
2015.3.2～3.18	ミニ展示「英語多読本」
2015.3.18～4.17 2015.3.19～4.17	春の特別展示　桜のなかりせば…　（綿抜豊昭　知的コミュニティ基盤研究センター長） 関連展示（図情図書館）

6 トピックス

3.見学・来訪者

日　付	内　容
2014.5.16	タイ国立カセサート大学学生部・学生団一行　46 名
2014.5.16	ノッティンガム大学一行　教授ほか 3 名
2014.5.22	カザフスタン経済大学研修生　18 名
2014.5.29	スタンフォード大学　Gary Mukai 氏ほか 3 名
2014.6.6	駐日ネパール国大使一行　3 名
2014.7.15	中国からの大学生一行　30 名
2014.7.29	マカオ大学学生団一行　15 名
2014.8.23／8.24／8.30	平成 26 年度受験生のための筑波大学説明会　4,625 名
2014.9.8	タイ国コンケン大学・台湾師範大学一行　30 名
2014.9.25	カンボジア研修生一行　10 名
2014.11.21	トルクメニスタン大使館参事官一行　14 名
2014.12.18	ロシアとカザフスタンの大学関係者（世界展開力）　9 名
2015.1.13	マレーシアクアラルンプールオフィス職員　1 名
2015.1.20	韓国障害学専攻学生一行　6 名
2015.2.6	釜山大学インターンシップ学生一行　3 名
2015.2.13	グローバルスタッフ交流会一行　5 名
2015.2.16	ロシア大学関係者（世界展開力）　34 名
2015.2.16	フランスボルドーからの来訪者（G30 関係国際室より）　7 名
2015.3.2	ベトナム国立図書館長一行　3 名
2015.3.2	中国ポストドクター　一行　6 名

※全76件（7,500名）から抜粋したものです

4.オリエンテーション・講習会

日　付	講　師	参加者数
新入生オリエンテーション（学群生）	4 回	2,413 名
新入大学院生オリエンテーション（院生）	10 回	233 名
留学生オリエンテーション	10 回	300 名
新任教員オリエンテーション	2 回	17 名
図書館の本や雑誌の探し方講習会	5 回	29 名
論文の探し方講習会	38 回	331 名
自由テーマオリエンテーション	16 回	58 名
科目関連指導	65 回	2,994 名
（内訳）フレッシュマンセミナー（各学類等）	49 回	2,297 名
授業「基礎化学実験」春学期の6コマ分を担当	2 回	118 名
授業「知の探検法」秋学期の11コマ分を担当	11 回	426 名
授業「国語Ⅰ」春学期の1コマ分を担当	1 回	4 名
授業「国語Ⅲ」春学期の2コマ分を担当	2 回	149 名
その他	8 回	326 名

開催日　内容	講　師	参加者数
ライティング支援連続セミナー　知識と言葉をめぐる冒険（2014春）		106名
6.5　文書リテラシー:小論文とレポートの違いは分りますか?	三波千穂美	26名
6.12 文書リテラシー:情報を構造化する	（図書館情報メディア系）	18名
6.19 大学で身につけたい言葉の力:疑うことからはじめよう-批判的に読む-	島田康行	22名
6.20 大学で身につけたい言葉の力:考え方の述べ方-主張の<構造>-	（アドミッションセンター）	19名
7.3　事実?意見?:図表を文章で表現する	野村港二	9名
7.10 事実?意見?:「事実」と「意見」を区別する	（教育イニシアティブ機構）	5名
7.17 自分を守る「情報リテラシー」:情報の海でおぼれないために	逸村裕（図書館情報メディア系）	7名
ライティング支援連続セミナー　知識と言葉をめぐる冒険（2014秋）		89名
10.28 文書リテラシー:小論文とレポートの違いは分りますか?	三波千穂美	21名
10.30 文書リテラシー:情報を構造化する	（図書館情報メディア系）	10名
11.6　大学で身につけたい言葉の力:疑うことからはじめよう-批判的に読む-	島田康行	14名
11.13 大学で身につけたい言葉の力:考え方の述べ方-主張の<構造>-	（アドミッションセンター）	12名
11.15 自分を守る「情報リテラシー」:情報の山で迷わないために	逸村裕（図書館情報メディア系）	15名
11.19 事実?意見?:図表を文章で表現する	野村港二	11名
11.20 事実?意見?:「事実」と「意見」を区別する	（教育イニシアティブ機構）	6名
LAセミナー		290名
11.18 文献管理しナイト!ー院生の"自分流"から探るテクニックー	ラーニング･アドバイザー（LA）	63名
12.2　プレゼンテーションセミナー「筑波大学No.1プレゼンターから プレゼンテーションの極意を盗む」	金井雅仁（人間総合科学研究科/LA）	101名
1.26 社会科学系院生による量的･質的研究法ビギナー講習会 第一部:量的研究のいろは	ラーニング･アドバイザー（LA）	66名
1.29 社会科学系院生による量的･質的研究法ビギナー講習会 第二部:質的研究のいろは	ラーニング･アドバイザー（LA）	60名

5.研修･シンポジウム

日　付	内　容
2014.6.30～7.10	平成26年度大学図書館職員長期研修　（受講生36名）
2014.8.25～9.5	インターンシップ（筑波大学情報学群 知識情報･図書館学類 1名）

6.会議

日　付	内　容
2014.5.20 2015.3.23	附属図書館研究開発室運営会議
2014.5.23／7.31／9.30 2015.3.3	附属図書館運営委員会
2014.6.6／8.7／9.24 2015.1.23	附属図書館収書専門委員会
2014.6.26／12.18	附属図書館ボランティア専門委員会

7.その他

日　付	内　容
2014.4.1	中央図書館2階ラーニング･スクエアをリニューアル
2013.9.11～2014.8.5	医学図書館　耐震改修工事に伴う資料の取り寄せ（ILL）無償化措置
2014.7.9	医学図書館　耐震改修工事竣工に伴い旧附属病院E棟6階仮設図書室を閉室
2014.8.6	医学図書館をリニューアルオープン
2014.8.29	中央図書館入退館システムの更新

7 メディアにみる附属図書館

1.学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日　付	掲載元	メディア	掲載内容
2014.5.21	カレントアウェアネス-R	Web	筑波大学、機関リポジトリをNIIのJAIRO Cloudへ移行
2014.5.23	ICT教育ニュース	Web	筑波大学／教育研究成果発信システムをNIIの共用サービスに移行
2014.6.12	日刊 常陽新聞	新聞	肩書きにとらわれず哲学的な議論　「ソクラテス･サンバ･カフェ」
2014.8.23	日刊 常陽新聞	新聞	サークル楽しみ隊 院生の視点から学群生へ 筑波大学附属図書館ラーニング･アドバイザー
2014.12.10	クローズアップ現代	テレビ	学生の情報探索行動について、逸村裕図書館情報メディア系教授がコメント。（附属中央図書館にて撮影）
2015.1.1	日刊 常陽新聞	新聞	工夫凝らし聴き手つかむ　筑波大学No.1プレゼンター　金井雅仁さん（H26ラーニング･アドバイザー）

2.図書館の刊行物

筑波大学附属図書館年報2013年度	
平成26年度筑波大学附属図書館企画展 図書館を飛び出した書物たち（図録）	
Prism（Practical Information for your Serendipity and Mind）	
No.62 2014.4.1	Learning Square Renewal
No.63 2014.4.2	創刊号から最新号までの全文が利用可能に。 （ScienceDirect, Nature本誌･関連誌23誌）
No.64 2014.4.24	中央図書館 学生サポートデスク ラーニング･アドバイザー2014
No.65 2014.7.1	ライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」体験記 「文書リテラシー」
No.66 2014.7.31	ライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」体験記 「大学で身につけたい言葉の力」
No.67 2014.7.31	ライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」体験記 「事実?意見?」
No.68 2014.8.22	ライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」体験記 「自分を守る『情報リテラシー』」
No.69 2014.10.1	What's 学生サポートデスク?
No.70 2014.10.23	医学図書館がリニューアルオープンしました!
No.71 2014.11.19	筑波大学No.1プレゼンターにラーニング･アドバイザー 金井雅仁さんが選ばれました!
No.72 2014.12.10	文献管理しナイト! 院生の"自分流"から探るテクニック　ダイジェスト
No.73 2014.12.12	プレゼンテーションセミナー2014 筑波大学No.1プレゼンターから プレゼンテーションの極意を盗む ダイジェスト
No.74 2015.2.16	社会科学系院生による量的･質的研究法ビギナー講習会 第1部量的研究のいろは
No.75 2015.2.23	社会科学系院生による量的･質的研究法ビギナー講習会 第2部質的研究のいろは
筑波大学附属図書館概要 2015（日本語版･英語版）	
筑波大学附属図書館利用案内2015（和英併記）	

2014年度発行
Prism Webサイト
アクセス数
No.1

8 所蔵・公開資料の記録

出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料

日 付	内 容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2014.5.1	出版	貴重書	宋揚輝算法 7巻	コ200-2	10076713848	「和算の再発見」
2014.5.14	出版	教科書	小學國史：尋常科用. 上巻	へ000-1142	10088019052	逆説の日本史 .17「江戸成熟編」
2014.5.14	出版	和装古書 マイクロ	佛説大藏正教血盆經和解	ハ320-72 090-Ts66-215	10076865120 10099800087	「佛説大藏正教血盆經和解」
2014.5.20	放映	和装古書	日本三大實録 巻第12	ヨ250-23	10076851083	NHK「ニュースワイド茨城」で放映 2014/5/28
2014.7.18	出版	和装古書	伊勢國亀山城来歴；亀山賦	ヨ350-45	10076850641	「文化研究」13 号
2014.8.8	出版	和装古書	張氏全書 第52冊	イ350-234	10076926240	「汲古」66 号
2014.8.29	放映	和装古書	文部省発行錦繪 ： 衣喰住之内家職幼繪解之圖等	へ950-宮196	10088015236	BS-TBS「ひと・まち紀行」 で放映
2014.8.29	出版	和装古書	散歩漫録 四上	ネ312-17	10076905574	「狂講深井志道軒：トトントン、 とんだ江戸の講釈師」
2014.9.5	出版	一般	コンドル博士遺作集	523.1-C86	40010001220	「視覚障害教育ブックレット 2 学期号（'14）」
2014.9.16	出版	貴重書	しやかの本地	ハ360-361	10076701230	「これからの国文学研究のために： 池田利夫追悼論集」
2014.9.17	出版	和装古書	誹諧書籍目録	ル102-1	10076716795	「俳文学報」48 号
2014.10.20	放映	和装古書	岩渕川口假橋勤番繪圖	ヨ150-170	10076879842	BS 朝日「百年名家」で放映
2014.11.18	出版	和装古書	文部省発行錦繪 ： 衣喰住之内家職幼繪解之圖等	へ950-宮196	10088015236	「DOBOKU 技士会東京」60 号
2014.12.4	放映	和装古書	見聞軍抄	ヨ380-172	10076852830	BS-TBS「謎解き！江戸のススメ」 第 140 回「江戸の美少年」で放映 2014/12/15
2014.12.24	出版	和装古書 貴重書	繪本拾遺信長記後篇巻之7 解体新書	ル152-6 サ200-6	10076721029 10076713857	「社会科の授業 小学 6 年」
2015.1.15	出版	貴重書	住吉物語絵巻	ル120-364	10076132005	「Cyan」4 号
2015.1.22	出版	和装古書	岩渕川口假橋勤番繪圖	ヨ150-170	10076879842	テレビ埼玉「川口宿鳩ヶ谷宿 日光御成道をゆく」で放映
2015.2.2	出版	和装古書	大日本名将鑑	へ950-宮247	10088015221	朝日ジュニアシリーズ 『週刊マンガ日本史』27 号 「足利尊氏」
2015.2.4	出版	和装古書	皇州緒餘撰部中昔京師地圖	ヨ150-243	10076881947	「山名宗全」
2015.2.6	放映	和装古書	御代の恩澤　巻之三	ロ580-869	10088015374	BS 日テレ「料理はじまり帖 第三弾」で放映 2015/3/2
2015.2.12	出版	貴重書	鯰絵 19	726.1-N47	10084019139	「うみと水ぞく」 （神戸市立須磨海浜水族園） 33 巻 4 号
2015.3.31	出版	貴重書	北野社家日記 ： 天正十九年 自閏正月至三月	北野社	10003015182	「利休切腹」

※全64件から抜粋したものです

9 附属図書館ボランティアの活動

1.2014 年度ボランティア構成

●男性：12　●女性：41　　計 53 名

〈年齢内訳〉

●30代：4　●40代：2　●50代：14

●60代：19　●70代：13　●80代：1

●新規活動者 5 名　●更新活動者 48 名

2.活動統計

1　総合案内

●ボランティアカウンター利用者数　1,158 人

（学内者：973 人　学外者：185 人）

●図書館見学案内　103 件　4,577 人

●対面朗読　レギュラー利用なし

2　利用環境整備

●シェルフリーディング数　3,663 連

（中央図書館：3,577 連　体芸図書館：86 連　）

●不明図書の発見　6 冊

●ラベル補修　364 冊

（中央図書館：316 冊　体芸図書館：48 冊）

●図書修理冊数　1,492 冊

（中央図書館：1,035 冊　体芸図書館：457 冊）

3　体芸図書館ポスター整理　422 枚

3.年間行事

1　フォローアップ研修

●「大学における障害のある学生の修学支援について」

●「総論」7 月 講師 竹田一則障害学生支援室長

●「視覚障害」9 月 講師 森まゆ障害学生支援室助教

●「聴覚障害・発達障害」11 月 講師 有海順子障害学生支援室助教、青木真純障害学生支援室助教

「障害者差別解消法」の施行（2016 年 4 月）を前に、障害学生支援室から講師をお招きし、3 回連続で障害別の支援について学びました。

●ミニレクチャー　1月

「Tulips Search の使い方」講師 兼松レファレンス担当係長

●学内施設見学（サイバニクス研究センター）6 月

ロボットスーツ HAL を生み出した研究施設を見学しました。人支援技術についての最先端の取り組みをわかりやすく説明していただきました。

ロボットスーツ HAL の前で

●学外施設見学（茨城大学図書館、茨城県立歴史館）12 月

2　ボランティア懇談会　10月

3　ボランティア講演会　10月

「紙の読みと電子の読みの違いが私たちにもたらすもの」

講師 池内淳図書館情報メディア系准教授

4　意見交換会

利用環境整備・総合案内合同　8 月

体芸特殊資料（ポスター）整理　2 月

4.各種活動

1　見学案内

フレッシュマンセミナーと高校生の見学は年々増加し、ボランティアが館内ガイドをしている姿がすっかり定着しています。

留学生オリエンテーション

特に、留学生オリエンテーションや、年間 20 件にも及ぶ海外からの来訪者など外国語の案内ボランティアは欠かせない存在となっています。

2　体芸図書館特殊資料（ポスター）整理

今年は、体芸図書館で美術展ポスターを整理するメンバーを募集し、5 名の新規ボランティアが加わりました。体芸図書館のコレクションである展覧会目録とのリンクやポスターデータベースの構築など細かい作業も伴いますが、芸術関係の豊富な資料に囲まれ美術展の情報交換など楽しみながら活動しています。

ポスター掲示（体芸図書館）

3　翻訳

図書館 Web ページの「図書館小技集」の英訳のお手伝いや、外国人教員の図書館業務インタビューの通訳をするなど、語学だけでなく図書館の知識も求められる活動にも関わりました。

4　その他の活動

2015年6月、図書館ボランティアは発足20周年を迎えます。有志による記念事業のためのワーキンググループを結成し、記念誌発行や式典準備の作業を行ないました。記念誌にはボランティア全員がコメントを寄せるなど、仕上がりが待ち遠しいところです。「図ボラの会」会報 200 号分の合冊製本も、図書修理ボランティアの手作りで進んでいます。

また、1月にはアメリカからの留学生がボランティアに加わり、総合案内や利用環境整備、日本文化紹介等の活動を体験しています。

特別な活動や留学生とのコミュニケーションの機会も増え、ボランティア活動が更に多様化した一年でした。

（見学・ボランティア担当専門職員　原澤　仁美）

10 組織図・歴代館長

1. 組織図

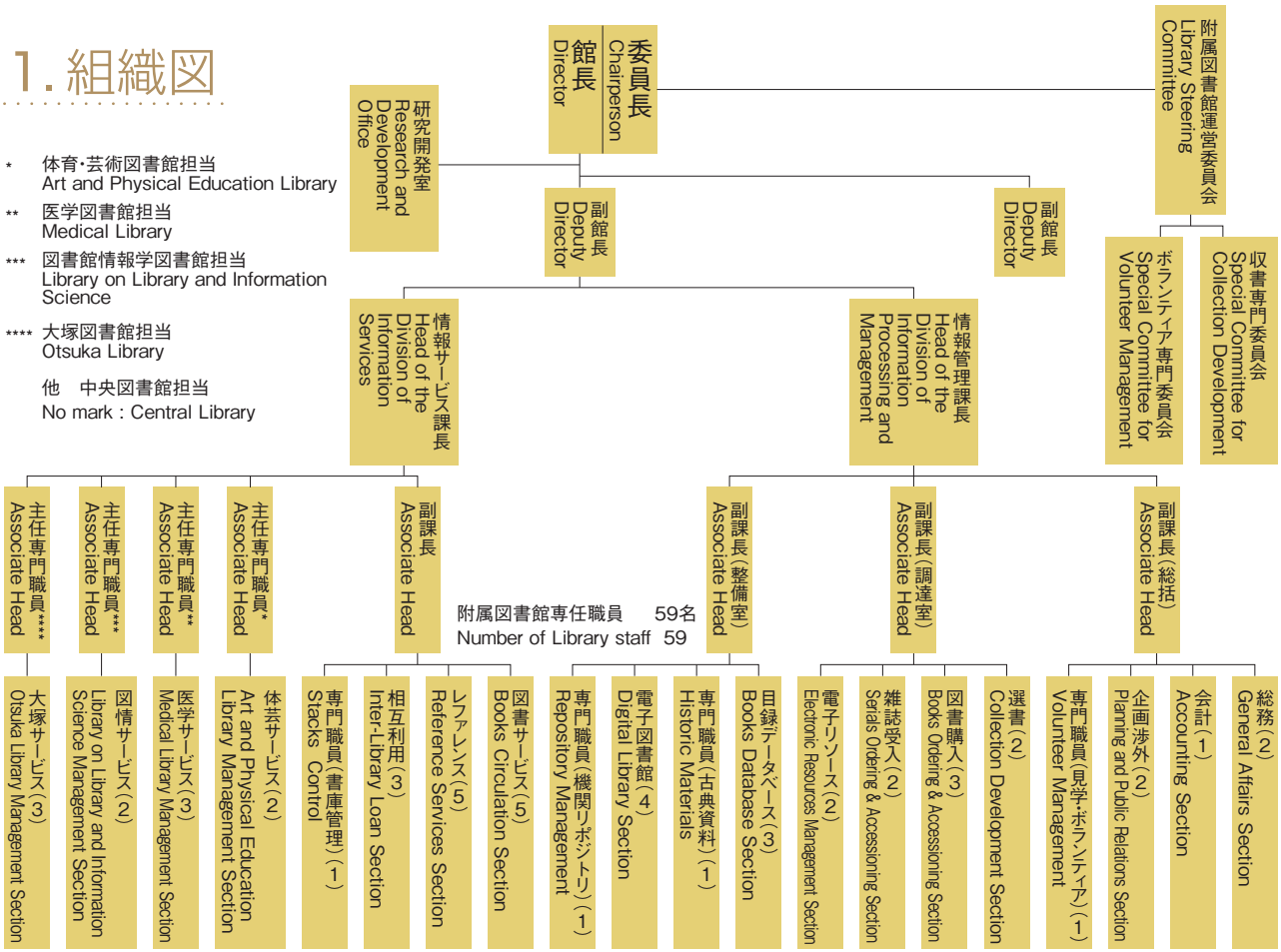
* 体育・芸術図書館担当
Art and Physical Education Library

** 医学図書館担当
Medical Library

*** 図書館情報学図書館担当
Library on Library and Information Science

**** 大塚図書館担当
Otsuka Library

他　中央図書館担当
No mark : Central Library



附属図書館専任職員　59名
Number of Library staff　59

(2014年4月1日現在)

2. 歴代図書館長

	名前	期間	備考
高等師範学校・東京高等師範学校	三宅　米吉	明治32年6月30日～明治36年9月6日	図書係事務監督
	三宅　米吉	明治32年9月7日　～明治44年4月29日	主幹
	松井　簡治	明治44年4月30日～昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井　簡治	昭和4年4月1日　～昭和7年3月3日	
	諸橋　轍次	昭和7年3月4日　～昭和20年10月3日	
	能勢　朝次	昭和20年10月4日～昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢　朝次	昭和24年6月1日　～昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日～昭和29年7月15日	
	中西　清	昭和29年7月16日～昭和31年3月31日	
	熊沢　龍	昭和31年4月1日　～昭和33年3月31日	
	熊沢　龍	昭和33年4月1日　～昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢　龍	昭和33年5月1日　～昭和35年4月30日	
	肥後　和男	昭和35年5月1日　～昭和38年3月31日	
	山崎　宏	昭和38年4月1日　～昭和40年3月31日	
	平塚　直秀	昭和40年4月1日　～昭和42年3月31日	
	酒井　忠夫	昭和42年4月1日　～昭和44年3月31日	
	宮嶋　龍興	昭和44年4月1日　～昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井　忠夫	昭和44年4月28日～昭和46年4月27日	
	橋本　重治	昭和46年4月28日～昭和47年3月31日	
	武藤　聡雄	昭和47年4月1日　～昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日　～昭和53年3月31日	

	名前	期間	備考
筑波大学	三輪　知雄	昭和48年10月1日～昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井　忠夫	昭和49年5月1日　～昭和50年4月1日	
	大饗　茂	昭和50年4月2日　～昭和52年4月1日	
	高橋　進	昭和52年4月2日　～昭和54年4月1日	
	宮嶋　龍興	昭和54年4月2日　～昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本　敬二	昭和54年6月9日　～昭和56年4月1日	
	高橋　進	昭和56年4月2日　～昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司　利男	昭和56年5月1日　～昭和60年3月31日	
	松浦　悦之	昭和60年4月1日　～昭和60年4月3日	事務取扱
	升田　公三	昭和60年4月3日　～昭和62年6月8日	
	柳沼　重剛	昭和62年6月9日　～平成元年6月8日	
	小川　圭治	平成元年6月9日　～平成3年3月31日	
	新井　敏弘	平成3年4月1日　～平成5年3月31日	
	北原　保雄	平成5年4月1日　～平成9年3月31日	2期
	斎藤　武生	平成9年4月1日　～平成11年3月31日	
	板橋　秀一	平成11年4月1日　～平成13年3月31日	
	山内　芳文	平成13年4月1日　～平成15年3月31日	
	林　史典	平成15年4月1日　～平成16年3月31日	
	植松　貞夫	平成16年4月1日　～平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日　～平成24年3月31日	
	中山　伸一	平成24年4月1日　～	

11 統計 2014（平成26）年度

1.利用統計

		中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
年間開館日数（日）	平日	239	239	221	242	244	
	土・日・祝日	111	91	101	120	115	
	合計	350	330	322	362	359	
入館者数（人）	平日	513,394	94,183	73,003	54,673	48,817	784,070
	（学外者　内数）	(26,326)	(1,904)	(2,308)	(4,543)	(20,571)	(55,652)
	土・日・祝日	96,834	11,503	14,676	7,806	33,993	164,812
	（学外者　内数）	(10,826)	(509)	(1,440)	(1,693)	(12,177)	(26,645)
	合計	610,228	105,686	87,679	62,479	82,810	948,882
	（学外者　内数）	(37,152)	(2,413)	(3,748)	(6,236)	(32,748)	(82,297)
平均入館者数（人）	平日	2,148	394	330	226	200	
	（学外者　内数）	(110)	(8)	(10)	(19)	(84)	
	土・日・祝日	872	126	145	65	296	
	（学外者　内数）	(98)	(6)	(14)	(14)	(106)	
	合計	1,744	320	272	173	231	
	（学外者　内数）	(106)	(7)	(12)	(17)	(91)	
貸出冊数（冊）	学群生	98,596	16,230	10,660	10,909	677	137,072
	院生	92,319	14,835	3,584	8,046	9,266	128,050
	教員	25,885	3,446	2,196	2,759	1,993	36,279
	学外者	4,820	547	266	995	1,554	8,182
	その他	253	178	32	0	0	463
	合計	221,873	35,236	16,738	22,709	13,490	310,046
貸出利用者数（人）	学群生	43,763	6,933	5,396	4,984	341	61,417
	院生	31,420	5,134	1,349	3,027	4,349	45,279
	教員	6,224	811	681	926	630	9,272
	学外者	2,304	270	110	503	811	3,998
	その他	57	10	3	0	0	70
	合計	83,768	13,158	7,539	9,440	6,131	120,036
文献複写（コピー）（件）	学外依頼	4,351	925	2,476	228	2,322	10,302
	学外提供	2,153	145	515	116	182	3,111
	合計	6,504	1,070	2,991	344	2,504	13,413
相互貸借（図書）（件）	学外借受	1,234	58	7	80	167	1,546
	学外貸出	2,456	214	40	139	57	2,906
	合計	3,690	272	47	219	224	4,452
レファレンス件数（件）	学生	10,830	1,742	1,241	687	4,281	18,781
	教職員	3,387	387	2,886	253	533	7,446
	その他	1,572	87	108	146	232	2,145
	合計	15,789	2,216	4,235	1,086	5,046	28,372
	資料に関するもの	10,013	1,644	3,683	516	4,384	20,240
	利用案内・指導	5,682	570	552	563	662	8,029
	事実に関するもの	94	2	0	7	0	103
	合計	15,789	2,216	4,235	1,086	5,046	28,372

Webコンテンツアクセス数

（※2014年のWebサイトリニューアル、つくばリポジトリの移行に伴い統計項目を変更）

トップページアクセス件数	件
学内	458,182
学外	1,012,682
合計	1,470,864

つくばリポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	1,126,104
本文ダウンロード数	761,951

主要な電子ジャーナルアクセス件数（フルテキスト）	件
Elsevier（ScienceDirect）	573,466
Wiley-Blackwell（Online Library）	157,072
Springer（LINK）	99,955
Oxford University Press	46,006
Cambridge University Press	6,226
Nature Publishing Group	152,711

主要な文献情報データベースアクセス件数（サーチ数）	件
Web of Science	147,014
SciFinder	26,180
Journal Citation Reports	9,161
Business Source Complete	6,069
CiNii	534,257
医中誌Web	76,313

T-ACT企画「つくばで恋チュン」

2.基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
建物面積(m²)	19,330	3,518	2,793	2,798	1,552	29,991
座席数(席)	1,053	394	338	261	129	2,175
利用者用PC台数(台)	163	70	75	38	25	371

(※2014年度末現在)

図　書

(冊)

		中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
図書の受入(和洋区分)	和書	11,778	3,096	1,515	2,325	3,804	22,518
	洋書	3,573	401	222	266	3,354	7,816
	合計	15,351	3,497	1,737	2,591	7,158	30,334
(受入区分)	購入	7,429	1,843	1,268	1,085	712	12,337
	寄贈	6,064	1,343	226	1,247	6,122	15,002
	製本	1,809	300	222	257	304	2,892
	その他	49	11	21	2	20	103
	合計	15,351	3,497	1,737	2,591	7,158	30,334
蔵書数(和洋区分)	和書	1,085,064	190,215	88,612	176,749	47,866	1,588,506
	洋書	787,958	66,198	80,218	73,203	22,211	1,029,788
	合計	1,873,022	256,413	168,830	249,952	70,077	2,618,294

雑誌(冊子)受入タイトル数

内訳	年度受入タイトル数		
	購入	寄贈	計
和雑誌	1,057	6,595	7,652
洋雑誌	967	1,040	2,007
合計	2,024	7,635	9,659

電子ジャーナル提供タイトル数

(※有料契約誌のみ)

内訳	タイトル数
Elsevier(ScienceDirect)	2,298
Springer(LINK)	1,704
Wiley-Blackwell(Online Library)	1,396
Oxford University Press	263
Cambridge University Press	335
JSTOR	978
Nature Publishing Group	35
その他	18,712
	25,721

つくばリポジトリ 累積登録件数

(※2014年度末現在)

内訳	件　数
学術雑誌掲載論文	5,499
学位論文全文	2,291
学位論文内容・審査の要旨	7,744
修士論文	84
紀要論文	14,660
研究報告書	2,207
会議発表資料	189
講義資料	31
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	63
その他(図書)	147
合計	33,033

提供データベース・検索ツール

●主要契約データベース

データベース名
Web of Science
Journal Citation Reports
SciFinder
Business Source Complete
Lexis.com
Westlaw Japan
D1-Law.com
CINAHL
医中誌Web
PsycINFO
ProQuest Central
ProQuest Dissertation & Theses Global
CiNii
Conference Proceedings Citation Index

●学外への公開・発信

公開・提供内容
沖縄歴史文献データベース
日本美術シソーラスデータベース(試験運用版)
展覧会ポスターデータベース
SCPJ(学協会著作権ポリシーDB)
つくばリポジトリ
つくばサイエンスアクティビティ
茨城県遺跡資料リポジトリ

電子ブック契約タイトル 累積数

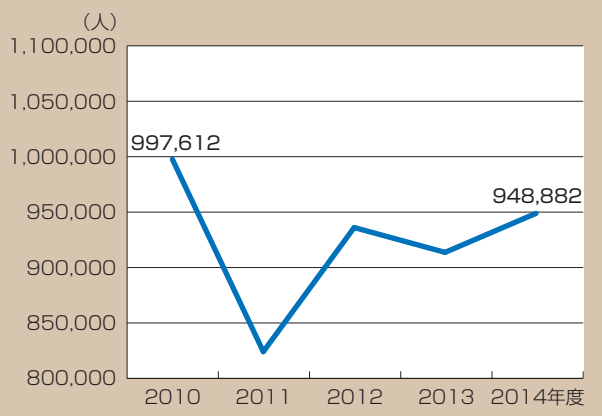
(※2014年度末現在)

内訳	タイトル数
Springer	21,423
NetLibrary	1,188
Wiley-Blackwell	1,031
Cambridge University Press	1,659
その他	1,965
合計	27,266

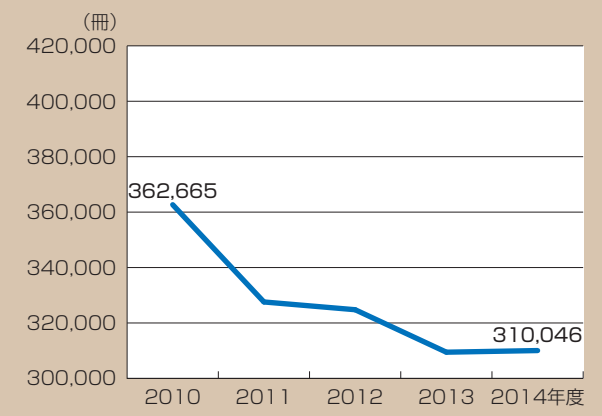
3.推移と分析

利用サービスの推移

●入館者数



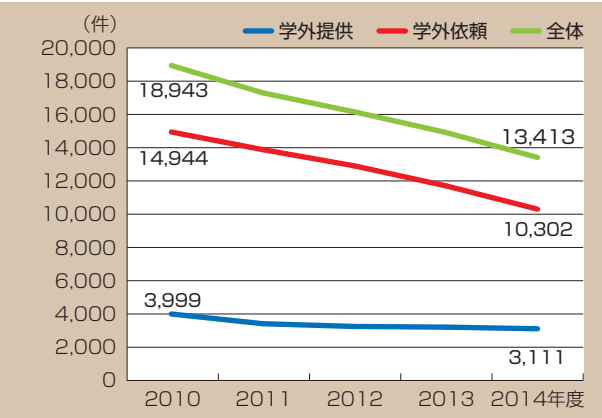
●貸出冊数



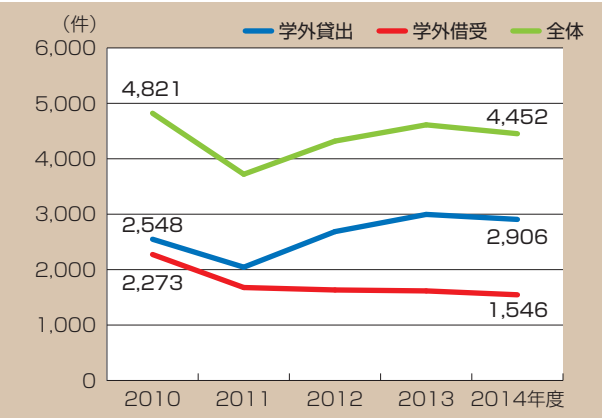
2011年の東日本大震災で大幅に減少した入館者数は、翌年にはおおむね回復傾向でしたが、医学図書館の耐震改修工事が2013年度に開始された影響で、一時的に減少しました。医学図書館は2014年8月にリニューアルオープンしましたが、医学図書館単独の入館者数（87,679人）は工事開始前（158,913人）の半分程度となっています。そういった状況にもかかわらず、資料展示やラーニング･アドバイザーによる講習会実施など、全館での様々な取り組みにより、全入館者数（948,882人）は医学図書館の工事開始前の水準（936,079人）を上回り、本学全体としては利用者が順調に戻ってきていることを示しています。

震災を挟んで貸出冊数も大幅に減少していますが、こちらは回復のきっかけをつかむべく、全館において資料配置の見直しや新たなジャンルの資料整備等に取り組んでいます。

●文献複写（コピー）件数



●相互貸借（図書）件数

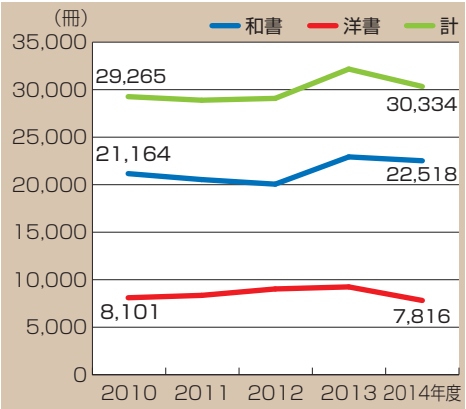


文献複写（コピー）件数や相互貸借（図書）件数は減少しています。電子ジャーナルや電子ブックの購入タイトルが増加していること、またそれらの普及が他大学等においても進んでいることが背景として考えられます。

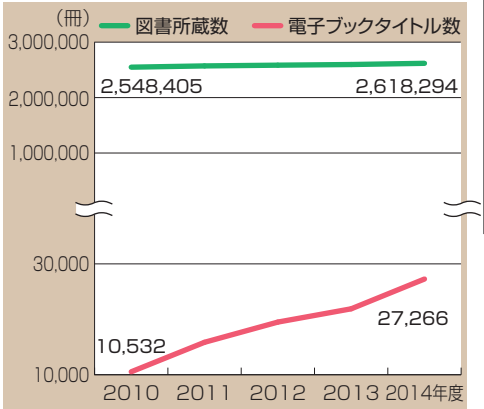
中央図書館南側入口にて

図書資料受入の推移

●図書受入冊数　ー和洋区分ー

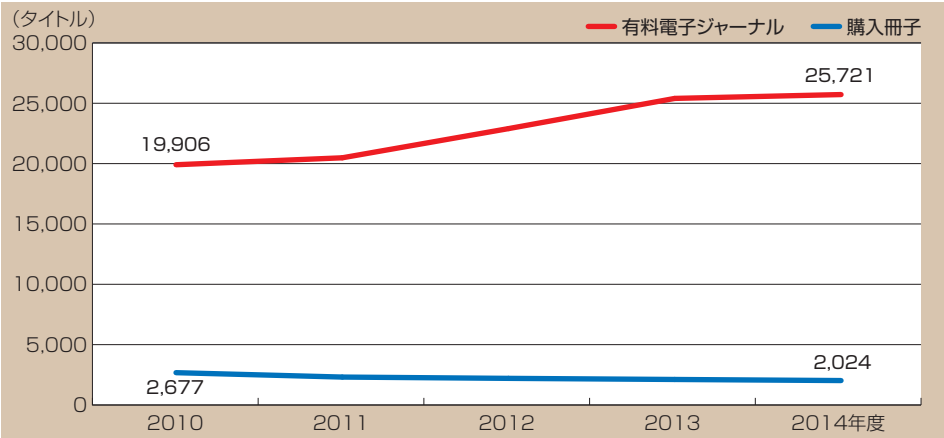


●図書所蔵数・電子ブックタイトル数



受入冊数は昨年度に比べ減少していますが、蔵書数全体でみると260万冊を超えました。2008年に導入を開始した電子ブックについては、継続的にタイトル数を伸ばしています。

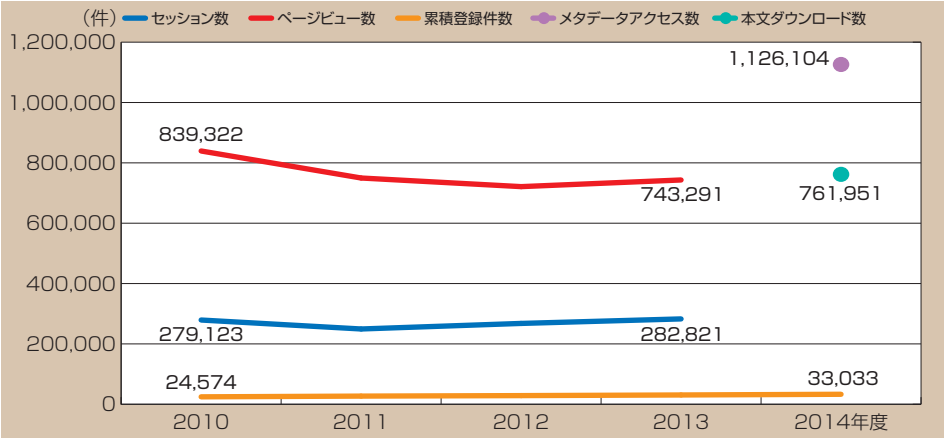
雑誌タイトル数の推移



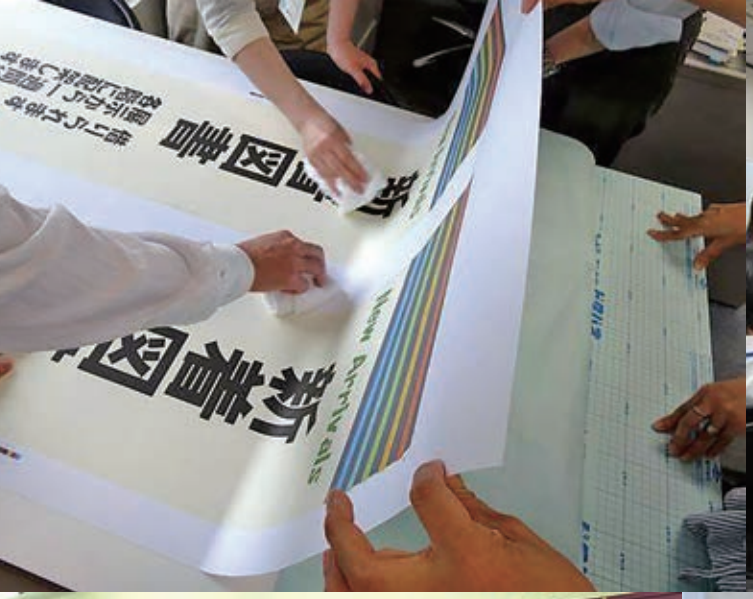
2013年度に引き続き、2014年度も本学共通経費による安定的な電子ジャーナルの提供が実現し、電子ジャーナルのタイトル数は増加しています。

※2009 年度統計より統計数値を整理するのに伴い、遡及的に過去の購入冊子数を修正しました

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



2014年5月21日にリポジトリシステムをDSpaceからJAIRO Cloudに移行したことにより計数方法に変更が生じ、統計項目を変更しました。コンテンツの登録数は3万3千件を超えました。



Tulips
University of Tsukuba Library

筑波大学附属図書館

〒305-8577　茨城県つくば市天王台 1-1-1
TEL 029-853-2347　FAX 029-853-6052
E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp
URL http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY ANNUAL REPORT 2014

14

平成27(2015)年5月31日発行
デザイン印刷：マザータンク